

### 3. 港湾工事出来形管理基準

凡 例

Ⓣ：図面及び特記仕様書

Ⓚ：港湾工事共通仕様書

業務共通仕様書：港湾設計・測量・調査等

業務共通仕様書

### 3. 港湾工事出来形管理基準

#### 目 次

1. 共通の工種	
1-1 圧密・排水工	3- 7
1-2 締固工	3- 11
1-3 固化工	3- 13
1-4 洗掘防止工	3- 15
1-5 中詰工	3- 15
1-6 蓋コンクリート工	3- 15
1-7 蓋ブロック工	3- 15
1-8 鋼矢板工	3- 17
1-9 控 工	3- 19
1-10 鋼杭工	3- 23
1-11 コンクリート杭工	3- 23
1-12 防食工	3- 25
1-13 コンクリート舗装工	3- 27
1-14 アスファルト舗装工	3- 29
1-15 植生工	3- 31
2. 土捨工	3- 33
3. 海上地盤改良工	
3-1 床掘工	3- 33
3-2 置換工	3- 33
3-3 圧密・排水工	3- 35
3-4 締固工	3- 35
3-5 固化工	3- 35
4. 基礎工	
4-1 基礎盛砂工	3- 35
4-2 洗掘防止工	3- 35
4-3 基礎捨石工	3- 37
4-4 基礎ブロック工	3- 39

5.	本體工 (ケーソン式)	
5-1	ケーソン製作工	3- 41
5-2	ケーソン進水据付工	3- 41
5-3	中詰工	3- 43
5-4	蓋コンクリート工	3- 43
5-5	蓋ブロック工	3- 43
6.	本體工 (ブロック式)	
6-1	本體ブロック製作工	3- 43
6-2	本體ブロック据付工	3- 45
6-3	中詰工	3- 45
6-4	蓋コンクリート工	3- 45
6-5	蓋ブロック工	3- 45
7.	本體工 (場所打式)	
7-1	場所打コンクリート工	3- 47
7-2	水中コンクリート工	3- 47
7-3	プレパックドコンクリート工	3- 47
7-4	水中不分離性コンクリート工	3- 49
8.	本體工 (捨石・捨ブロック式)	
8-1	洗掘防止工	3- 49
8-2	本體捨石工	3- 49
8-3	捨ブロック工	3- 49
8-4	場所打コンクリート工	3- 51
9.	本體工 (鋼矢板式)	
9-1	鋼矢板工	3- 51
9-2	控 工	3- 51
10.	本體工 (コンクリート矢板式)	
10-1	コンクリート矢板工	3- 53
10-2	控 工	3- 53
11.	本體工 (鋼杭式)	
11-1	鋼杭工	3- 53
12.	本體工 (コンクリート杭式)	
12-1	コンクリート杭工	3- 53

13. 被覆・根固工		
13-1	被覆石工	3- 55
13-2	被覆ブロック工	3- 55
13-3	根固ブロック工	3- 55
14. 上部工		
14-1	上部コンクリート工	3- 57
14-2	上部ブロック工	3- 59
15. 付属工		
15-1	係船柱工	3- 61
15-2	防舷材工	3- 61
15-3	車止・縁金物工	3- 61
15-4	防食工	3- 63
15-5	付属設備工	3- 63
16. 消波工		
16-1	洗掘防止工	3- 63
16-2	消波ブロック工	3- 63
17. 裏込・裏埋工		
17-1	裏込工	3- 65
17-2	裏埋工	3- 65
17-3	裏埋土工	3- 65
18. 陸上地盤改良工		
18-1	圧密・排水工	3- 67
18-2	締固工	3- 67
18-3	固化工	3- 67
19. 土 工		
19-1	掘削工	3- 67
19-2	盛土工	3- 67
19-3	路床盛土工	3- 67
19-4	法面工	3- 69
20. 舗装工		
20-1	コンクリート舗装工	3- 69
20-2	アスファルト舗装工	3- 69

21. 維持補修工	
21-1 維持塗装工	3- 69
21-2 防食工	3- 69
22. 構造物撤去工	
22-1 取壊し工	3- 71
22-2 撤去工	3- 71
23. 仮設工	
23-1 仮設鋼矢板工	3- 73
23-2 仮設鋼管杭・鋼管矢板工	3- 73
23-3 仮設道路工	3- 73
24. 雑工	
24-1 現場鋼材溶接工	3- 73
24-2 現場鋼材切断工	3- 75
24-3 その他雑工	3- 75
25. 浚渫工	
25-1 ポンプ浚渫工	3- 75
25-2 グラブ浚渫工	3- 75
25-3 硬土盤浚渫工	3- 75
25-4 岩盤浚渫工	3- 77
25-5 バックハウ浚渫工	3- 77
26. 埋立工	
26-1 固化工	3- 77
26-2 埋立土工	3- 77
27. 道路舗装工	
27-1 コンクリート舗装工	3- 79
27-2 アスファルト舗装工	3- 79
27-3 道路付属工	3- 79
28. 緑地工	
28-1 植生工	3- 79

[ 参 考 ]

様式・出来形 1-1-2(1)	；敷砂出来形管理表	3- 81
様式・出来形 1-1-2(2)	；敷砂出来形管理図	3- 82
様式・出来形 1-2-2(1)	；サトコソパ°クソソパ°ル出来形管理表	3- 83
様式・出来形 1-2-2(2)	；砂投入管理表	3- 84
様式・出来形 1-2-2(3)	；締固工深淺図	3- 85
様式・出来形 1-3-1(1)	；深層混合処理杭出来形管理表	3- 86
様式・出来形 1-3-1(2)	；深層混合処理杭鉛直度管理表	3- 87
様式・出来形 1-4-1(1)	；洗掘防止マット出来形管理表	3- 88
様式・出来形 1-4-1(2)	；洗掘防止マット出来形管理図	3- 89
様式・出来形 1-5-1	；砂・石材中詰出来形管理表	3- 90
様式・出来形 1-6-1	；蓋コンクリート出来形管理表	3- 91
様式・出来形 1-8-2	；鋼矢板出来形管理表	3- 92
様式・出来形 1-9-5	；腹起出来形管理表	3- 93
様式・出来形 1-9-6	；タイ材出来形管理表	3- 94
様式・出来形 1-10-2(1)	；鋼杭打込記録	3- 95
様式・出来形 1-10-2(2)	；鋼杭出来形管理表	3- 96
様式・出来形 1-12-1(1)	；電気防食出来形管理表	3- 97
様式・出来形 1-12-1(2)	；電気防食電位測定管理表	3- 98
様式・出来形 1-13-1(1)	；路盤出来形管理表	3- 99
様式・出来形 1-13-1(2)	；路盤出来形管理図	3-100
様式・出来形 1-14-3(1)	；舗装出来形管理表	3-101
様式・出来形 1-14-3(2)	；舗装出来形管理図	3-102
様式・出来形 3-2-1	；置換材出来形管理表	3-103
様式・出来形 4-3-2(1)	；基礎石均し出来形管理図(1)	3-104
様式・出来形 4-3-2(2)	；基礎石均し出来形管理図(2)	3-105
様式・出来形 5-1-1	；ケーソン製作出来形管理表	3-106
様式・出来形 5-2-1	；ケーソン据付出来形管理表	3-107
様式・出来形 6-1(1)	；ブロック（方塊）製作出来形管理表	3-108
様式・出来形 6-1(2)	；L型ブロック製作出来形管理表	3-109
様式・出来形 6-1(3)	；セルラーブロック製作出来形管理表	3-110
様式・出来形 6-1(4)	；ブロック製作等外見チェックリスト	3-111
様式・出来形 13-1-1(1)	；被覆石均し出来形管理図(1)	3-112
様式・出来形 13-1-1(2)	；被覆石均し出来形管理図(2)	3-113
様式・出来形 13-3-1	；根固ブロック製作出来形管理表	3-114
様式・出来形 14-1(1)	；上部コンクリート(防波堤)出来形管理表	3-115
様式・出来形 14-1(2)	；上部コンクリート(岸壁)出来形管理表	3-116

様式・出来形 15-1-1	；係船柱出来形管理表	.....	3-117
様式・出来形 15-2-1	；防舷材出来形管理表	.....	3-118
様式・出来形 15-3-1	；車止出来形管理表	.....	3-119
様式・出来形 17-3-1	；土砂掘削出来形管理表	.....	3-120
様式・出来形 24-1-1(1)	；すみ肉溶接出来形管理表	.....	3-121
様式・出来形 24-1-1(2)	；突合せ溶接出来形管理表	.....	3-122
様式・出来形 24-1-1(3)	；鉄筋フレア溶接出来形管理表	.....	3-123
様式・出来形 25-1(1)	；浚渫出来形管理表	.....	3-124
様式・出来形 25-1(2)	；浚渫出来形管理図	.....	3-125

1. 共通の工種

1-1 圧密・排水工

工 種	管理項目	測定方法	測定密度
1. サンドドレーン	位 置	自動位置決め装置又はトランシット及び光波測距儀により測定	移動毎及び監督職員の指示による。
	天端高 先端深度	打込記録の確認	全 数
	砂の投入量	打込記録の確認	全 数
2. 敷砂均し	延 長	スチールテープ、間縄、光波測距儀等により測定	施工完了後
	天端高 天端幅 法面勾配	陸上部；スチールテープ、レベル、光波測距儀等で測定	測線間隔20m以下 測点間隔10m以下
		水中部；スチールテープ、間縄、レッド又は音響測深機等により測定	測線間隔20m以下 測点間隔20m以下
3. 載荷土砂	延 長	スチールテープ、間縄等により測定	施工完了後
	天端高 天端幅 法面勾配	陸上部；スチールテープ、レベル、光波測距儀等で測定	測線間隔20m以下 測点間隔10m以下
		水中部；スチールテープ、間縄、レッド又は音響測深機等により測定	測線間隔20m以下 測点間隔20m以下

測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
1 cm	管理図に測定結果を記入し提出	±10cm	自動位置決め装置の作動状況が確認されていれば不要。
10cm	打込記録紙及び管理表を作成して提出	天端高 +規定しない -0 先端深度 +0 -規定しない	+ ; 設計値より浅い (高い) ことをいう。 - ; 設計値より深い (低い) ことをいう。 ( ) は陸上。
0.1m <sup>3</sup>	打込記録紙に砂の圧入量を記入し提出		
10cm	管理図に延長を記入し提出	+規定しない -0	様式・出来形1-1-2参照
天端高 1 cm 天端幅10cm	管理図に天端高、法肩、法尻、天端幅及び法面勾配を記入し提出	天端高 ±30cm天端幅、法面勾配は(特)による。	
10cm			
10cm	管理図に延長を記入し提出	+規定しない -0	
天端幅10cm 天端高 1 cm	管理図に天端高、法肩、法尻、天端幅及び法面勾配を記入し提出	天端高 ±50cm 天端幅、法面勾配は(特)による。	
10cm			

工 種	管理項目	測定方法	測定密度
4. ペーパードレーン	位 置	自動位置決め装置又はトランシット及び光波測距儀により測定	移動毎及び監督職員の指示による。
	天端高 先端深度	打込記録の確認	全 数
	ドレーン材 の打込長	打込記録の確認	全 数
5. グラベルマット	延 長	スチールテープ、間縄、光波測距儀等により測定	施工完了後
	天端高 天端幅 法面勾配	陸上部；スチールテープ、レベル、光波測距儀等で測定	測線間隔20m以下 測点間隔10m以下
		水中部；スチールテープ、間縄、レッド又は音響測深機等により測定	測線間隔20m以下 測点間隔20m以下
6. グラベルドレーン	位 置	自動位置決め装置又はトランシット及び光波測距儀により測定	移動毎及び監督職員の指示による。
	天端高 先端深度	打込記録の確認	全 数
	碎石の投入 量	打込記録の確認	全 数

測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
1 cm	管理図に測定結果を記入し提出	±10cm	自動位置決め装置の作動状況が確認されていれば不要。
10cm	打込記録紙及び管理表を作成して提出	天端高 +規定しない -0 先端深度 +0 -規定しない	+ ; 設計値より浅い (高い) ことをいう。 - ; 設計値より深い (低い) ことをいう。 ( ) は陸上。
10cm	打込記録紙に打込長を記入し提出		
10cm	管理図に延長を記入し提出	+規定しない -0	様式・出来形1-1-2参照
天端高 1 cm 天端幅10cm	管理図に天端高、法肩、法尻、天端幅及び法面勾配を記入し提出	天端高 ±30cm天端幅、法面勾配は <sup>特</sup> による。	
10cm			
1 cm	管理図に測定結果を記入し提出	±10cm	自動位置決め装置の作動状況が確認されていれば不要。
10cm	打込記録紙及び管理表を作成して提出	天端高 +規定しない -0 先端深度 +0 -規定しない	+ ; 設計値より浅い (高い) ことをいう。 - ; 設計値より深い (低い) ことをいう。 ( ) は陸上。
0.1m <sup>3</sup>	打込記録紙に砕石の投入量を記入し提出		

1-2 締固工

工 種	管理項目	測定方法	測定密度
1. ロッドコンパクション	位 置	自動位置決め装置又はトランシット及び光波測距儀により測定	移動毎及び監督職員の指示による。
	充填材の投入量		
	天端高	打込記録の確認	全 数
	先端深度	打込記録の確認	全 数
2. サンドコンパクションパイル	位 置	自動位置決め装置又はトランシット及び光波測距儀により測定	移動毎及び監督職員の指示による。
	天端高 先端深度	打込記録の確認	砂杭全数
	砂の投入量	打込記録の確認	砂杭全数
	盛上り量	レベル、音響測深機又はレッドにより測定	完了後 測線・測点間隔は㊦による。
3. 盛上土砂撤去	撤去量	レベル、音響測深機又はレッドにより測定	完了後 測線・測点間隔は㊦による。
4. 敷砂均し			

測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
10cm	管理図に測定結果を記入し提出	±10cm	自動位置決め装置の作動状況が確認されていれば不要。
1.0m <sup>3</sup>	測定記録等の提出		
10cm	打込記録の提出	天端高 +規定しない -0	
10cm	打込記録の提出	先端深度 +0 -規定しない	+ ; 設計値より浅い (高い) ことをいう。 - ; 設計値より深い (低い) ことをいう。 ( ) は陸上。
1 cm	管理図に測定結果を記入し提出	±10cm	様式・出来形1-2-2参照。自動位置決め装置の作動状況が確認されていれば不要。
10cm	打込記録紙及び管理表を作成して提出	天端高 +規定しない -0 先端深度 +0 -規定しない	+ ; 設計値より浅い (高い) ことをいう。 - ; 設計値より深い (低い) ことをいう。 ( ) は陸上。
0.1m <sup>3</sup>	打込記録紙に砂の圧入量を記入し提出		
10cm	盛り上り量の平面図を作成し提出		
10cm	撤去量の平面図を作成し提出		
			1-1-2敷砂均しを適用する。

1-3 固化工

工 種	管理項目	測定方法	測定密度
1. 深層混合処理杭	位 置	自動位置決め装置又はトランシット及び光波測距儀により測定	海上施工は改良杭全数。 陸上施工は特による。
	鉛直度 接 合	トランシット及び傾斜計等により処理機の鉛直度を測定	改良杭全数 深度方向に2～5m程度毎に測定 (引抜きと貫入時)
	天端高 先端深度	深度計、ワイヤー繰出長さ、潮位計、乾舷及び処理機等により確認	改良杭全数
	固化材吐出 量	流量計等により固化材のm当りの吐出量を確認	改良杭全数
	盛上り量	レベル、音響測深機又はレッドにより測定	改良前、改良後
2. 敷砂均し			
3. 事前混合処理	延 長	スチールテープ、間縄等により測定	施工完了後
	天端高、天 端幅	陸上部：スチールテープ、レベル、光波測距儀等で測定	測線間隔20m以下 測点間隔10m以下
		水中部：スチールテープ、間縄、レッド又は音響測深機により測定	測線間隔20m以下 測点間隔20m以下
4. 表層固化処理	延 長	スチールテープ、間縄等により測定	施工完了後
	天端高、天 端幅、厚さ	スチールテープ、レベル、光波測距儀等で測定	測線間隔20m以下 測点間隔10m以下

測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
1 cm	管理図に測定結果を記入し提出	トランシット及び光波測距儀等により測定する場合は㊟による。	様式・出来形1-3-1参照。自動位置決め装置の作動状況が確認されていれば不要。
1分又は1 cm	改良杭先端部の軌跡図を作成し提出	㊟による。	陸上施工は除く。
1 cm	打込記録紙又は打込記録データに天端高、先端深度を記入し管理表を提出	天端高 +規定しない -0 先端深度 +0 -規定しない	+；設計値より浅い（高い）ことをいう。 -；設計値より深い（低い）ことをいう。 （ ）は陸上。
10又は1 t	打込記録紙又は打込記録データに固化材吐出量を記入し提出		
10cm	盛上り量の図面を作成し提出		
			1-1-2敷砂均しを適用する。
10cm	管理図に延長を記入し提出	+規定しない -0	
天端幅10cm 天端高1 cm	管理図に天端高、天端幅を記入し提出	㊟による。	
10cm			
10cm	管理図に延長を記入し提出	+規定しない -0	
天端幅10cm 天端高・厚さ1 cm	管理図に天端高、天端幅、厚さを記入し提出	㊟による。	

1-4 洗掘防止工

工 種	管理項目	測定方法	測定密度
1. 洗掘防止	敷設位置	スチールテープ、間縄等により測定	始、終端及び変化する箇所毎並びに20mに1箇所以上。
	重ね幅	スチールテープ等により測定	1枚に2点
	延長	スチールテープ、間縄等により測定	マットの中心を区間毎及び全長

1-5 中詰工

工 種	管理項目	測定方法	測定密度
1. 砂・石材中詰	天端高	レベル、スチールテープ等によりケーソン天端面からの下りを測定	1室につき1箇所(中心)
2. コンクリート中詰	天端高	レベル、スチールテープ等によりケーソン天端面からの下りを測定	1室につき1箇所(中心)
3. プレパックドコンクリート中詰			

1-6 蓋コンクリート工

工 種	管理項目	測定方法	測定密度
1. 蓋コンクリート	天端高	レベル、スチールテープ等により測定	1室につき1箇所(中心)

1-7 蓋ブロック工

工 種	管理項目	測定方法	測定密度
1. 蓋ブロック製作	幅、高さ、長さ、壁厚	スチールテープ等により測定	型枠取外し後全数
	対角線	スチールテープ等により測定	型枠取外し後全数
2. 蓋ブロック据付	蓋ブロック据付(天端高)	レベル、スチールテープ等により測定	1室につき1箇所

測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
10cm	測定表及び敷設図を作成し提出	特による。	様式・出来形1-4-1参照 アスファルトマット、繊維系マット、ゴムマット、合成樹脂系マット
1 cm	測定表及び敷設図を作成し提出	50cm以上(アスファルトマット・繊維系マット、ゴムマット) 30cm以上(合成樹脂系マット)	
10cm	測定表及び敷設図を作成し提出	+規定しない -10cm	

測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
1 cm	管理表を作成し提出	陸上±5 cm 水中±10cm	様式・出来形1-5-1参照
1 cm	管理表を作成し提出	陸上±3 cm 水中±5 cm	

測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
1 cm	管理表を作成し提出	陸上±3 cm 水中±5 cm	様式・出来形1-6-1参照

測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
1 cm	管理表を作成し提出	幅 +2 cm, -1 cm 高さ+2 cm, -1 cm 長さ+2 cm, -1 cm 壁厚±1 cm	
1 cm	管理表を作成し提出		
1 cm	管理表を作成し提出		

1-8 鋼矢板工

工 種	管理項目	測定方法	測定密度
1. 先行掘削	位 置	トランシット、光波測距儀、スチールテープ等により測定	全 数
	掘削長 掘削深度	レベル等により測定	全 数
	掘削径	スチールテープ等により測定（水中の場合はケーシング径等により確認）	全数（水中の場合は適宜）
2. 鋼矢板			
イ) 鋼矢板	打込記録	㊦ 第1編 5-3-13-2-(10)	40枚に1枚
	矢板壁延長	スチールテープ等により測定（天端付近）	施工中適宜 打込完了時
	矢板法線に対する出入り	トランシット、光波測距儀、スチールテープ等により測定	打込完了時、20枚に1枚及び計画法線の変化点
	矢板法線に対する傾斜	トランシット、光波測距儀、下げ振り、傾斜計等により測定	打込完了時、20枚に1枚及び計画法線の変化点
	矢板法線方向の傾斜		施工中適宜 打込完了時（両端部）
	矢板天端高	レベルにより測定	打込完了時、20枚に1枚
	矢板継手部の離脱	観察（水中部は潜水士）	全 数
ロ) 鋼管矢板	打込記録	㊦ 第1編 5-3-13-2-(10)	20本に1本
	矢板壁延長	スチールテープ等により測定（天端付近）	施工中適宜 打込完了時
	矢板法線に対する出入り	トランシット、光波測距儀、スチールテープ等により測定	打込完了時、10本に1本及び計画法線の変化点
	矢板法線に対する傾斜	トランシット、光波測距儀、下げ振り、傾斜計等により測定	打込完了時、全数確認後10本に1本及び変化点
	矢板法線方向の傾斜		施工中適宜 打込完了時（両端部）
	矢板天端高	レベルにより測定	打込完了時、10本に1本
	矢板継手部の離脱	観察（水中部は潜水士）	全 数

測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
10cm	測定表を作成し提出	特による。	
10cm	測定表を作成し提出	特による。	+ ; 設計値より浅いことをいう - ; 設計値より深いことをいう
10cm	測定表を作成し提出	特による。	
	打込記録を提出		様式・出来形1-8-2参照
1 cm	管理表を作成し提出	+ 矢板 1 枚幅 - 0	
1 cm	管理表を作成し提出	±10cm	全数を目視で確認
1/1000	管理表を作成し提出	10/1000以下	
1 cm	管理表を作成し提出	上下の差が矢板 1 枚 幅未満	
1/1000	管理表を作成し提出	10/1000以下	
1 cm	管理表を作成し提出	±10cm	全数を目視で確認
	観察結果を報告		
	打込記録を提出		
1 cm	管理表を作成し提出	特による。	
1 cm	管理表を作成し提出	±10cm	全数を目視で確認
1/1000	管理表を作成し提出	10/1000以下	
1 cm	管理表を作成し提出	上下の差が矢板 1 枚 幅未満	
1/1000	管理表を作成し提出	10/1000以下	
1 cm	管理表を作成し提出	±10cm	全数を目視で確認
	観察結果を報告		

1-9 控工

工 種	管理項目	測定方法	測定密度
1. 控鋼矢板	打込記録	㊦ 第1編 5-3-14-2-(10)	40枚に1枚
	矢板壁延長	スチールテープ等により測定（天端付近）	施工中適宜 打込完了時
	矢板法線に対する出入り	トランシット、光波測距儀、スチールテープ等により測定	打込完了時、20枚に1枚 及び計画法線の変化点
	矢板法線に対する傾斜	トランシット、光波測距儀、下げ振り、傾斜計等により測定	打込完了時、20枚に1枚 及び計画法線の変化点
	矢板法線方向の傾斜		施工中適宜 打込完了時（両端部）
	矢板天端高	レベルにより測定	打込完了時、20枚に1枚
	矢板継手部の離脱	観察（水中部は潜水士）	全 数
2. 控鋼杭	打込記録	㊦ 第1編 5-3-14-3-(8)	20本に1本
	杭頭中心位置	トランシット、光波測距儀、スチールテープ	打込完了時、全数
	杭天端高	レベルにより測定	打込完了時、全数
	杭の傾斜	トランシット、光波測距儀、下げ振り、傾斜計等により測定	打込完了時、全数
3. プレキャストコンクリート控壁	幅、高さ、長さ、壁厚	スチールテープ等により測定	型枠取外後全数
	法線に対する出入	トランシット、光波測距儀、スチールテープ等により測定	据付後ブロック1個につき2箇所（最下段、最上段）
	隣接ブロックとの間隔	スチールテープ等により測定	据付後ブロック1個につき2箇所（最下段、最上段）
	延長	スチールテープ等により測定	据付完了後、法線上（最上段のみ）
	天端高	レベル等により測定	据付後ブロック1個につき2箇所

測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
	打込記録を提出		様式・出来形1-8-2参照
1 cm	管理表を作成し提出	+ 矢板 1 枚幅 - 0	
1 cm	管理表を作成し提出	± 10cm	全数を目視で確認
1/1000	管理表を作成し提出	10/1000以下	
1 cm	管理表を作成し提出	上下の差が矢板 1 枚 幅未満	
1/1000		10/1000以下	
1 cm	管理表を作成し提出	± 10cm	全数を目視で確認
	観察結果を報告		
	打込記録を提出		様式・出来形1-10-2参照
1 cm	管理表を作成し提出	10cm以下	
1 cm	管理表を作成し提出	± 5 cm	
1°	管理表を作成し提出	直杭 2° 以下 斜杭 3° 以下	
1 cm	管理表を作成し提出	幅 + 2 cm, - 1 cm 高さ + 2 cm, - 1 cm 長さ + 2 cm, - 1 cm 壁厚 ± 1 cm	
1 cm	管理表を作成し提出	± 5 cm	
1 cm	管理表を作成し提出	特による。	
1 cm	管理表を作成し提出		
1 cm	管理表を作成し提出		

工 種	管理項目	測定方法	測定密度
4. 場所打コンクリート控壁	天端高又は厚さ	トランシット、光波測距儀、スチールテープ等により測定	1 スパン 3 箇所
	天端幅	スチールテープ等により測定	1 スパン 3 箇所
	延長	スチールテープ等により測定	法線上
	法線に対する出入	トランシット、光波測距儀、スチールテープ等により測定	1 スパン 2 箇所
5. 腹 起	取付高さ	レベル等により測定	取付完了時、両端（継手毎）全数
	継手位置	観 察	取付完了時、全数
	ボルトの取付け	観 察	取付完了時、全数
	矢板と腹起しとの密着	観 察	タイロッド毎、全数
6. タイ材			
イ) タイロッド取付	取付け高さ及び水平度	レベル等により測定	締付後両端、全数
	矢板法線に対する取付角度及び取付間隔	スチールテープ等により測定	締付後両端、全数
	定着ナットの締付け	観 察	全 数
	ターンバックルのねじ込み長さ	観 察	全 数
	リングジョイントのコンクリートへの埋込み	観 察	全 数
	支保材の天端高	レベル等により測定	適 宜
	ロ) タイワイヤー取付	取付高さ	レベル等により測定
矢板法線に対する取付角度及び取付間隔		スチールテープ等により測定	締付後両端、全数
定着ナットの締付け		観 察	全 数

測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
1 cm	測定表を作成し提出	± 2 cm	天端高又は厚さの管理項目の選定は㊦による。
1 cm	測定表を作成し提出	± 2 cm	
1 cm	測定表を作成し提出	+規定しない - 0	
1 cm	測定表を作成し提出	± 3 cm	
1 cm	管理表を作成し提出		様式・出来形1-9-5参照
	観察結果を報告		
	観察結果を報告		
	観察結果を報告		
1 cm	管理表を作成し提出		様式・出来形1-9-6参照 腹起しに取り付ける場合は不要
1 cm	管理表を作成し提出		
	観察結果を報告	ねじ山が3つ山以上 突き出していること。	
1 cm	観察結果を報告	定着ナットの高さ以上	
	観察結果を報告		
1 cm	管理表を作成し提出		
1 cm	管理表を作成し提出		腹起しに取り付ける場合は不要
1 cm	管理表を作成し提出		
	観察結果を報告	ねじ山が3つ山以上 突き出していること。	

工 種	管理項目	測定方法	測定密度
	定着具端部 栓の取付け	観 察	全 数
	トランペッ トシースの 取付	観 察	全 数

1-10 鋼杭工

工 種	管理項目	測定方法	測定密度
1. 先行掘削			
2. 鋼 杭	打込記録	㊦ 第1編 5-3-15-2- (9)	20本に1本
	杭頭中心位 置	トランシット、光波測 距儀、スチールテープ 等により測定	打込完了時、全数
	杭天端高	レベル等により測定	打込完了時、全数
	杭の傾斜	トランシット、光波測 距儀、下げ振り、傾斜 計等により測定	打込完了時、全数

1-11 コンクリート杭工

工 種	管理項目	測定方法	測定密度
1. コンクリート杭	打込記録	JIS A 7201 記録	支持杭は全数、支持杭以 外は20本に1本
	杭頭中心位 置	トランシット、光波測 距儀、スチールテープ 等により測定	打込完了時、全数
	杭天端高	レベル等により測定	打込完了時、全数
	杭の傾斜	トランシット、光波測 距儀、下げ振り、傾斜 計等により測定	打込完了時、全数

測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
	観察結果を報告		
	観察結果を報告		

測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
			1-8-1先行掘削を適用する。
	打込記録を提出		様式・出来形1-10-2参照
1 cm	管理表を作成し提出	10cm以下	
1 cm	管理表を作成し提出	± 5 cm	
1 °	管理表を作成し提出	直杭 2° 以下 斜杭 3° 以下	

測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
	JIS A 7201 付表 5 打込み工法記録を作成し提出		
1 cm	管理表を作成し提出	10cm以下	
1 cm	管理表を作成し提出	± 5 cm	
1 °	管理表を作成し提出	直杭 2° 以下 斜杭 3° 以下	

1-12 防食工

工 種	管理項目	測定方法	測定密度
1. 電気防食	取付位置	目視（承諾された図面より確認）潜水士による。	取付完了後、全数
	電位測定	測定機器による。	取付完了後、測定端子取付箇所毎
2. FRPモルタル被覆	取付高さ（被覆範囲）	レベル等により測定	完了後、保護カバーの上端又は下端高さ（被覆範囲の確認） 鋼管杭；全 数 矢板；1打設3箇所以上
3. ペトロラタム被覆	取付高さ（被覆範囲）	レベル等により測定	完了後、保護カバーの上端又は下端高さ（被覆範囲の確認） 鋼管杭；全 数 矢板；監督職員の指示による
4. コンクリート被覆	高さ（被覆範囲）	レベル等により測定	完了後、上端・下端高さ（被覆範囲の確認） 鋼管杭；全 数 矢板；1打設3箇所以上
5. 防食塗装	高さ（被覆範囲）	レベル等により測定	完了後、上端・下端高さ（被覆範囲の確認） 鋼管杭；全 数 矢板；50㎡に1箇所以上

測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
1 c m	測定表を作成し提出	±20cm ※水深の変状等により図面通りに取付が困難な場合は別途協議する。	様式・出来形1-12-1参照
1 m V	測定表を作成し提出	飽和かんこう電極基準；-770mV 海水塩化銀基準；-780mV 又は飽和硫酸銅電極基準；-850mV	
特による	測定表を作成し提出	特による	測定密度における矢板の1打設とは、コンクリートモルタルの配合1回当たりの打設を示す。
特による	測定表を作成し提出	特による	
特による	測定表を作成し提出	特による	測定密度における矢板の1打設とは、コンクリートモルタルの配合1回当たりの打設を示す。
特による	測定表を作成し提出	特による	

1-13 コンクリート舗装工

工 種	管理項目	測定方法	測定密度
1. 下層路盤	高 さ	レベル等により測定	舗装は中心及び両端部の3点を延長20mに1箇所、道路舗装は中心及び両端部の3点を延長40mに1箇所
	厚 さ	レベル等により測定	舗装は1,000m <sup>2</sup> に1箇所、道路舗装は㊦による。
	幅	スチールテープ、光波測距儀等により測定	舗装は延長20mに1箇所、道路舗装は延長40mに1箇所
	延 長	スチールテープ、光波測距儀等により測定	両端2箇所
2. 上層路盤	厚 さ	レベル等により測定	舗装は1,000m <sup>2</sup> に1箇所、道路舗装は㊦による。
	幅	スチールテープ、光波測距儀等により測定	舗装は延長20mに1箇所、道路舗装は延長40mに1箇所
	延 長	スチールテープ、光波測距儀等により測定	両端2箇所
3. コンクリート舗装版	厚 さ	レベル等により測定	舗装は中心及び両端部の3点を延長20mに1箇所、道路舗装は中心及び両端部の3点を延長40mに1箇所
	幅	スチールテープ、光波測距儀等により測定	舗装は延長20mに1箇所、道路舗装は延長40mに1箇所
	延 長	スチールテープ、光波測距儀等により測定	両端2箇所
	平坦性	3mプロフィールメータにより測定	各レーン毎全延長

測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
1 cm	測定表を作成し提出	± 4 cm	様式・出来形1-13-1参照
1 mm	測定表を作成し提出	+規定しない -4.5cm	
1 cm	測定表を作成し提出	+規定しない - 5 cm	
1 cm	測定表を作成し提出	+規定しない - 0	
1 mm	測定表を作成し提出	+規定しない -2.5cm	
1 cm	測定表を作成し提出	+規定しない - 5 cm	
1 cm	測定表を作成し提出	+規定しない - 0	
1 cm	測定表を作成し提出	+規定しない - 1 cm	コンクリート版の厚さ、 その他を確認するため、 監督職員が必要と認めた ときは、コアを採取す る。
1 mm	測定表を作成し提出	+規定しない -2.5cm	
1 cm	測定表を作成し提出	+規定しない - 0	
1 mm	記録紙及び管理表 を作成し提出	機械舗設の場合 2mm以下 人力舗設の場合 3mm以下	

1-14 アスファルト舗装工

工 種	管理項目	測定方法	測定密度
1. 下層路盤	高 さ	レベル等により測定	舗装は中心及び両端部の3点を延長20mに1箇所、道路舗装は中心及び両端部の3点を延長40mに1箇所
	厚 さ	レベル等により測定	舗装は1,000m <sup>2</sup> に1箇所、道路舗装は㊦による。
	幅	スチールテープ、光波測距儀等により測定	舗装は延長20mに1箇所、道路舗装は延長40mに1箇所
	延 長	スチールテープ、光波測距儀等により測定	両端2箇所
2. 上層路盤	厚 さ	レベル等により測定	舗装は1,000m <sup>2</sup> に1箇所、道路舗装は㊦による。
	幅	スチールテープ、光波測距儀等により測定	舗装は延長20mに1箇所、道路舗装は延長40mに1箇所
	延 長	スチールテープ、光波測距儀等により測定	両端2箇所
3. 基 層	厚 さ	抜き取りコアをスチールテープ等で測定	1,000m <sup>2</sup> に1箇所
	幅	スチールテープ、光波測距儀等により測定	舗装は延長20mに1箇所、道路舗装は延長40mに1箇所
	延 長	スチールテープ、光波測距儀等により測定	両端2箇所
4. 表 層	厚 さ	抜き取りコアをスチールテープ等で測定	1,000m <sup>2</sup> に1箇所
	幅	スチールテープ、光波測距儀等により測定	舗装は延長20mに1箇所、道路舗装は延長40mに1箇所
	延 長	スチールテープ、光波測距儀等により測定	両端2箇所
	平坦性	3mプロフィールメータにより測定	各レーン毎全延長

測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
1 cm	測定表を作成し提出	± 5 cm	
1 mm	測定表を作成し提出	+ 規定しない - 4.5cm	
1 cm	測定表を作成し提出	+ 規定しない - 5 cm	
1 cm	測定表を作成し提出	+ 規定しない - 0	
1 cm	測定表を作成し提出	+ 規定しない - 3 cm	
1 cm	測定表を作成し提出	+ 規定しない - 5 cm	
1 cm	測定表を作成し提出	+ 規定しない - 0	
1 mm	測定表を作成し提出	+ 規定しない - 1.2cm	様式・出来形1-14-3参照
1 mm	測定表を作成し提出	+ 規定しない - 2.5cm	
1 cm	測定表を作成し提出	+ 規定しない - 0	
1 mm	測定表を作成し提出	+ 規定しない - 9 mm	様式・出来形1-14-3参照
1 mm	測定表を作成し提出	+ 規定しない - 2.5cm	
1 cm	測定表を作成し提出	+ 規定しない - 0	
1 mm	記録紙及び管理表を作成し提出	2.4mm以下	

1-15 植生工

工 種	管理項目	測定方法	測定密度
1. 張 芝 2. 筋 芝	材料の使用 数量	使用数量表等により確 認	施工完了後
	長さ、幅 (面積)	スチールテープ等によ り測定	施工完了後
	植生状況	観 察	施工完了後、区域全体
3. 播 種 4. 種子吹付	材料の使用 数量	使用数量表等により確 認	施工完了後
	長さ、幅 (面積)	スチールテープ等によ り測定	施工完了後
	植生状況	④による。	④による。
5. 植 栽	材料の使用 数量	使用数量表等により確 認	搬入時、全数
	樹高、枝張 り幅、幹周 り	スチールテープ等によ り測定	種類毎、搬入後適宜
	植付け状況	観 察	施工完了後、全本数

測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
	使用数量表等を作成し提出		
10cm (0.1m <sup>2</sup> )	管理表を作成し提出	+規定しない -0	
	観察結果を報告		
	使用数量表等を作成し提出		
10cm (0.1m <sup>2</sup> )	管理表を作成し提出	+規定しない -0	
	④による。	④による。	
	使用数量表等を作成し提出		
樹高、枝張り幅 10cm 幹周り 1cm	管理表を作成し提出	+規定しない -0	
	観察結果を報告		

## 2. 土捨工

## 3. 海上地盤改良工

### 3-1 床掘工

工 種	管理項目	測定方法	測定密度
1. ポンプ床掘 2. グラブ床掘 3. 硬土盤床掘 4. 砕岩床掘 5. バックホウ床掘	水 深 (底面)	音響測深機、レッド又はレベル等により測定	㊦による。
	(法面)	音響測深機、レッド又はレベル等により測定	㊦による。

### 3-2 置換工

工 種	管理項目	測定方法	測定密度
1. 置換材均し	延 長	スチールテープ、間縄、光波測距儀等により測定	施工完了後
	天端高、天端幅、法面	陸上部；スチールテープ、レベル、光波測距儀等で測定	測線間隔20m以下測点間隔10m以下
		水中部；スチールテープ、間縄、レッド又は音響測深機等により測定	測線間隔20m以下測点間隔20m以下

測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
10cm	平面図に実測値を記入し提出	±30cm又は㊟による。	断面図は監督職員が指示したとき作成し提出
10cm	平面図に実測値を記入し提出	外側 2 m (法面に直角) 内側30cm(法面に直角) 又は㊟による。	

測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
10cm	管理図に延長を記入し提出	+規定しない - 0	様式・出来形3-2-1参照
天端高 1 cm 天端幅10cm	管理図に天端高、法肩、法尻、天端幅及び法面勾配を記入し提出	天端高 ±50cm又は㊟による 天端幅、法面は㊟による。	
10cm			

### 3-3 圧密・排水工

工 種	管理項目	測定方法	測定密度
圧密・排水工			

### 3-4 締固工

工 種	管理項目	測定方法	測定密度
締固工			

### 3-5 固化工

工 種	管理項目	測定方法	測定密度
固化工			

## 4. 基礎工

### 4-1 基礎盛砂工

工 種	管理項目	測定方法	測定密度
1. 盛砂均し	延 長	スチールテープ、間縄、光波測距儀等により測定	施工完了後
	天端高 天端幅 法面勾配	スチールテープ、間縄、レッド又は音響測深機等により測定	測線間隔20m以下 測点間隔20m以下

### 4-2 洗掘防止工

工 種	管理項目	測定方法	測定密度
洗掘防止工			

測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
			1-1圧密・排水工を適用する。

測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
			1-2締固工を適用する。

測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
			1-3固化工を適用する。

測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
10cm	管理図に延長を記入し提出	+規定しない - 0	様式・出来形1-1-2参照
10cm	管理図に天端高、法肩、法尻、天端幅及び法面勾配を記入し提出	天端高 ±30cm天端幅、法面勾配は④による。	

測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
			1-4洗掘防止工を適用する。

4-3 基礎捨石工

工 種	管理項目	測定方法	測定密度
1. 基礎捨石 (均しを行わない面)	天端高	音響測深機、レッド又はレベル等により測定	測線及び測点間隔は10m以下
	法 面	音響測深機、レッド又はレベル等により測定	測線間隔は10m以下測点3点以上、但し、マウンド厚2m以下の場合は2点以上
	天端幅	スチールテープ、間縄等により測定	測線間隔は10m以下
	延 長	スチールテープ、間縄等により測定	法線上又は監督職員の指示による。
2. 捨石本均し	天端高	レベル又は <sup>特</sup> により測定	測線及び測点間隔は10m以下
	天端幅	スチールテープ、間縄等により測定	測線間隔は10m以下
	延 長	スチールテープ、間縄等により測定	法線上又は監督職員の指示による。
3. 捨石荒均し	天端高	音響測深機、レッド又はレベル等により測定	測線及び測点間隔は10m以下
	法 面	音響測深機、レッド又はレベル等により測定	測線間隔は10m以下測点3点以上、但し、マウンド厚2m以下の場合は2点以上
	天端幅	スチールテープ、間縄等により測定	測線間隔は10m以下
	延 長	スチールテープ、間縄等により測定	法線上又は監督職員の指示による。

測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
10cm	出来形図を作成し提出	特による。	
1 cm	出来形図を作成し提出	± 5 cm	様式・出来形4-3-2参照
10cm	出来形図を作成し提出	+規定しない -10cm	
10cm	出来形図を作成し提出	+規定しない -10cm	
10cm	出来形図を作成し提出	注)-1 ±50cm、岸壁前面+0, -20cm 又は特による。 異形ブロック据付面(整積)の高さ(法面に直角)±30cm 又は特による。	注)-1 係留施設・護岸・土留壁等の背面については、荒均しを適用しない。
10cm	出来形図を作成し提出	注)-2 ±50cm (法面に直角) 異形ブロック据付面(整積)の高さ(法面に直角)±30cm 又は特による。	注)-2 係留施設・護岸・土留壁等の背面については、荒均しを適用しない。
10cm	出来形図を作成し提出	+規定しない -10cm	
10cm	出来形図を作成し提出	+規定しない -10cm	

4-4 基礎ブロック工

工 種	管理項目	測定方法	測定密度
1. 基礎ブロック製作	幅、高さ、長さ、壁厚	スチールテープ等により測定	型枠取外し後全数
	対角線	スチールテープ等により測定	型枠取外し後全数
	型枠形状寸法（異形ブロック）	観 察	型枠搬入後適宜
	ブロック外観（異形ブロック）	観察	全 数
2. 基礎ブロック据付	法線に対する出入	スチールテープ等により測定	据付後ブロック1個につき2箇所（最下段、最上段）
	隣接ブロックとの間隔	スチールテープ等により測定	据付後ブロック1個につき2箇所（最下段、最上段）
	延 長	スチールテープ等により測定	据付完了後、法線上（最上段のみ）
	天端高	レベル等により測定	据付後ブロック1個につき2箇所（最上段のみ）

測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
1 cm	管理表を作成し提出	幅 + 2 cm, - 1 cm 高さ + 2 cm, - 1 cm 長さ + 2 cm, - 1 cm 壁厚 ± 1 cm	様式・出来形6-1参照 ブロック(方塊)
1 cm	管理表を作成し提出		
	観察結果を記録・ 整理 ただし、監督職員 の請求があった場 合に提示		
	観察結果を報告		
1 cm	管理表を作成し提出	± 5 cm	
1 cm	管理表を作成し提出	ブロック(方塊) 3 cm以下	
1 cm	管理表を作成し提出		
1 cm	管理表を作成し提出		

## 5. 本体工（ケーソン式）

### 5-1 ケーソン製作工

工 種	管理項目	測定方法	測定密度
1. ケーソン製作	摩擦増大用 マット敷設 位置	スチールテープ等により確認	始・終端及び変化する箇所毎
	高 さ	スチールテープ等により測定	完成時、四隅
	幅	スチールテープ等により測定	各層完成時に中央部及び底版と天端は両端
	長 さ	スチールテープ等により測定	各層完成時に中央部及び底版と天端は両端
	壁 厚	スチールテープ等により測定	各層完成時、各壁 1 箇所
	底版厚さ	レベル、スチールテープ等により測定	底版完成時、各室中央部 1 箇所
	フーチング 高さ	スチールテープ等により測定	底版完成時、四隅
	対角線	スチールテープ等により測定	底版完成時及び完成時
	バラスト	レベル、レッド等により測定	各室中央部 1 箇所

### 5-2 ケーソン進水据付工

工 種	管理項目	測定方法	測定密度
1. ケーソン進水据付	法線に対する出入	トランシット及びスチールテープ等により測定	据付完了後、両端 2 箇所
	据付目地間隔	スチールテープ等により測定	据付完了後、天端 2 箇所
	天端高さ	レベルにより測定	据付完了後、四隅 中詰完了時、四隅
	延長	スチールテープ等により測定	据付完了後、法線上

測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
10cm	測定表及び敷設図を作成し提出	特による。	
1 cm	管理表を作成し提出	+ 3 cm - 1 cm	様式・出来形5-1-1参照
1 cm	管理表を作成し提出	+ 3 cm - 1 cm	
1 cm	管理表を作成し提出	+ 3 cm - 1 cm	
1 cm	管理表を作成し提出	± 1 cm	
1 cm	管理表を作成し提出	+ 3 cm - 1 cm	
1 cm	管理表を作成し提出	+ 3 cm - 1 cm	
1 cm	管理表を作成し提出	± 5 cm	
1 cm	管理表を作成し提出	砕石・砂 ±10cm コンクリート ± 5 cm	投入量管理

測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
1 cm	管理表を作成し提出	防波堤 ケーソ質量 2,000t未満±20cm 2,000t以上±30cm 岸壁 ケーソ質量 2,000t未満±10cm 2,000t以上±15cm	様式・出来形5-2-1参照
1 cm	管理表を作成し提出	防波堤 ケーソ質量 2,000t未満 20cm以下 2,000t以上 30cm以下 岸壁 ケーソ質量 2,000t未満 10cm以下 2,000t以上 20cm以下	
1 cm	管理表を作成し提出		
1 cm	管理表を作成し提出		

### 5-3 中詰工

工 種	管理項目	測定方法	測定密度
中詰工			

### 5-4 蓋コンクリート工

工 種	管理項目	測定方法	測定密度
蓋コンクリート工			

### 5-5 蓋ブロック工

工 種	管理項目	測定方法	測定密度
蓋ブロック工			

## 6. 本体工（ブロック式）

### 6-1 本体ブロック製作工

工 種	管理項目	測定方法	測定密度
1. 本体ブロック製作	幅、高さ、長さ、壁厚	スチールテープ等により測定	型枠取外し後全数
	対角線	スチールテープ等により測定	型枠取外し後全数
	型枠形状寸法（異形ブロック）	観 察	型枠搬入後適宜
	ブロック外観（異形ブロック）	観 察	全 数

測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
			1-5中詰工を適用する。

測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
			1-6蓋コンクリート工を適用する。

測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
			1-7蓋ブロック工を適用する。

測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
1 cm	管理表を作成し提出	幅 + 2 cm, - 1 cm 高さ + 2 cm, - 1 cm 長さ + 2 cm, - 1 cm 壁厚 ± 1 cm	様式・出来形6-1参照 L型ブロック セルラーブロック ブロック(方塊)
1 cm	管理表を作成し提出		様式・出来形6-1参照 セルラーブロック ブロック(方塊)
	観察結果を記録・整理 ただし、監督職員の請求があった場合に提示		
	観察結果を報告		

### 6-2 本体ブロック据付工

工 種	管理項目	測定方法	測定密度
1. 本体ブロック据付	法線に対する出入	スチールテープ等により測定	据付後ブロック1個につき2箇所（最下段、最上段）
	隣接ブロックとの間隔	スチールテープ等により測定	据付後ブロック1個につき2箇所（最下段、最上段）
	延 長	スチールテープ等により測定	据付完了後、法線上（最上段のみ）
	天端高	レベル等により測定	据付後ブロック1個につき2箇所（最上段のみ）

### 6-3 中詰工

工 種	管理項目	測定方法	測定密度
中詰工			

### 6-4 蓋コンクリート工

工 種	管理項目	測定方法	測定密度
蓋コンクリート工			

### 6-5 蓋ブロック工

工 種	管理項目	測定方法	測定密度
蓋ブロック工			

測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
1 cm	管理表を作成し提出	± 5 cm	
1 cm	管理表を作成し提出	L型ブロック セルラーブロック 5 cm以下 直立消波ブロック ブロック(方塊) 3 cm以下	
1 cm	管理表を作成し提出		
1 cm	管理表を作成し提出		

測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
			1-5中詰工を適用する。

測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
			1-6蓋コンクリート工を適用する。

測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
			1-7蓋ブロック工を適用する。

7. 本體工（場所打式）

7-1 場所打コンクリート工

工 種	管理項目	測定方法	測定密度
場所打コンクリート工			
イ) 防波堤	天端高又は厚さ	レベル等により測定	天端面は1 スパン4 箇所以上 パラペット頂部は1 スパン2 箇所以上
	天端幅	スチールテープ等により測定	1 スパン3 箇所
	延 長	スチールテープ等により測定	法線上
	法線に対する出入	トランシット、スチールテープ等により測定	1 スパン2 箇所
ロ) 岸 壁	天端高又は厚さ	レベル、スチールテープ等により測定	1 スパン3 箇所
	天端幅	スチールテープ等により測定	1 スパン3 箇所
	延 長	スチールテープ等により測定	法線上
	法線に対する出入	トランシット、スチールテープ等により測定	1 スパン2 箇所
	防舷材ベッド	スチールテープ等により測定	スパン毎

7-2 水中コンクリート工

工 種	管理項目	測定方法	測定密度
水中コンクリート工			

7-3 プレパックドコンクリート工

工 種	管理項目	測定方法	測定密度
プレパックドコンクリート工			

測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
1 cm	測定表を作成し提出	天端幅10m以下の場合 は± 2 cm 天端幅10mを超える 場合は+ 5 cm－ 2 cm	様式・出来形14-1参照 天端高さ又は厚さの管理 項目の選定は特による。
1 cm	測定表を作成し提出	天端幅10m以下の場合 は± 3 cm 天端幅10mを超える 場合は+ 5 cm－ 3 cm	
1 cm	測定表を作成し提出	+ 規定しない － 0	
1 cm	測定表を作成し提出	± 5 cm 注) 又は特による。	
1 cm	測定表を作成し提出	± 2 cm	天端高又は厚さの管理項 目の選定は特による。
1 cm	測定表を作成し提出	± 2 cm	
1 cm	測定表を作成し提出	+ 規定しない － 0	
1 cm	測定表を作成し提出	± 3 cm	
1 cm	測定表を作成し提出		

測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
			7-1場所打コンクリート工 を適用する。

測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
			7-1場所打コンクリート工 を適用する。

7-4 水中不分離性コンクリート工

工 種	管理項目	測定方法	測定密度
水中不分離性コンクリート工			

8. 本体工（捨石・捨ブロック式）

8-1 洗掘防止工

工 種	管理項目	測定方法	測定密度
洗掘防止工			

8-2 本体捨石工

工 種	管理項目	測定方法	測定密度
本体捨石工			

8-3 捨ブロック工

工 種	管理項目	測定方法	測定密度
1. 捨ブロック製作	幅、高さ、長さ、壁厚	スチールテープ等により測定	型枠取外し後全数
	対角線	スチールテープ等により測定	型枠取外し後全数
	型枠形状寸法（異形ブロック）	観 察	型枠搬入後適宜
	ブロック外観（異形ブロック）	観察	10個に1個以上測定
2. 捨ブロック据付	法線に対する出入	スチールテープ等により測定	据付後ブロック1個につき2箇所（最下段、最上段）
	隣接ブロックとの間隔	スチールテープ等により測定	据付後ブロック1個につき2箇所（最下段、最上段）
	延 長	スチールテープ等により測定	据付完了後、法線上（最上段のみ）
	天端高	レベル等により測定	据付後ブロック1個につき2箇所（最上段のみ）

測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
			7-1場所打コンクリート工を適用する。

測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
			1-4洗掘防止工を適用する。

測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
			4-3基礎捨石工を適用する。

測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
1 cm	管理表を作成し提出	幅 + 2 cm, - 1 cm 高さ + 2 cm, - 1 cm 長さ + 2 cm, - 1 cm 壁厚 ± 1 cm	様式・出来形6-1参照 ブロック(方塊)
1 cm	管理表を作成し提出		
	観察結果を記録・整理 ただし、監督職員の請求があった場合に提示		
	観察結果を報告		
1 cm	管理表を作成し提出	± 5 cm	
1 cm	管理表を作成し提出	ブロック(方塊) 3 cm以下	
1 cm	管理表を作成し提出		
1 cm	管理表を作成し提出		

### 8-4 場所打コンクリート工

工 種	管理項目	測定方法	測定密度
場所打コンクリート工	天端高	レベル等により測定	天端面は1スパン4箇所以上 パラペット頂部は1スパン2箇所以上
	天端幅	スチールテープ等により測定	1スパン3箇所
	延長	スチールテープ等により測定	法線上
	法線に対する出入	トランシット、スチールテープ等により測定	1スパン2箇所

## 9. 本体工（鋼矢板式）

### 9-1 鋼矢板工

工 種	管理項目	測定方法	測定密度
鋼矢板工			

### 9-2 控 工

工 種	管理項目	測定方法	測定密度
控 工			

測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
1 cm	測定表を作成し提出	天端幅10m以下の場合 は± 2 cm 天端幅10mを超える 場合は+ 5 cm - 2 cm	様式・出来形14-1参照 天端高さの管理項目の選 定は特による。
1 cm	測定表を作成し提出	天端幅10m以下の場合 は± 3 cm 天端幅10mを超える 場合は+ 5 cm - 3 cm	
1 cm	測定表を作成し提出	+規定しない - 0	
1 cm	測定表を作成し提出	± 5 cm (注) 又は特による。	

測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
			1-8鋼矢板工を適用する。

測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
			1-9控工を適用する。

## 10. 本体工（コンクリート矢板式）

### 10-1 コンクリート矢板工

工 種	管理項目	測定方法	測定密度
1. コンクリート矢板	矢板壁延長	スチールテープ等により測定（天端付近）	施工中適宜 打込完了時
	矢板法線に対する出入り	トランシット、スチールテープ等により測定	打込完了時、20枚に1枚及び計画法線の変化点
	矢板法線に対する傾斜	トランシット、下げ振り、傾斜計等により測定	打込完了時、20枚に1枚及び計画法線の変化点
	矢板法線方向の傾斜	トランシット、下げ振り、傾斜計等により測定	施工中適宜 打込完了時（両端部）
	矢板天端高	レベルにより測定	打込完了時、20枚に1枚
	矢板継手部の離脱	観察（水中部は潜水士）	全 数

### 10-2 控 工

工 種	管理項目	測定方法	測定密度
控 工			

## 11. 本体工（鋼杭式）

### 11-1. 鋼杭工

工 種	管理項目	測定方法	測定密度
鋼杭工			

## 12. 本体工（コンクリート杭式）

### 12-1 コンクリート杭工

工 種	管理項目	測定方法	測定密度
コンクリート杭工			

測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
1 cm	管理表を作成し提出	+ 矢板 1 枚幅 - 0	
1 cm	管理表を作成し提出	㊦による。	全数を目視で確認
1/1000	管理表を作成し提出	㊦による。	
1 cm 1/1000	管理表を作成し提出	上下の差が矢板 1 枚 幅未満2/100以下	
1 cm	管理表を作成し提出	± 5 cm	全数を目視で確認
	観察結果を報告		

測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
			1-9控工を適用する。

測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
			1-10鋼杭工を適用する。

測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
			1-11コンクリート杭工を 適用する。

### 13. 被覆・根固工

#### 13-1 被覆石工

工 種	管理項目	測定方法	測定密度
1. 被覆石 (均しを行わない面)	天端面	音響測深機、レッド又はレベル等により測定	測線及び測点間隔は10m以下
2. 被覆石均し	天端面	音響測深機、レッド又はレベル等により測定	測線及び測点間隔は10m以下
	法 面	音響測深機、レッド又はレベル等により測定	測線間隔は10m以下、測点3点以上但し、マウンド厚2m以下の場合は2点以上
	天端幅	スチールテープ、間縄等により測定	測線間隔は10m以下
	延 長	スチールテープ、間縄等により測定	天端中心上又は監督職員の指示による。

#### 13-2 被覆ブロック工

工 種	管理項目	測定方法	測定密度
1. 被覆ブロック製作	型枠形状寸法（異形ブロック）	観 察	型枠搬入後適宜
	ブロック外観（異形ブロック）	観察	10個に1個以上
2. 被覆ブロック据付	延 長	スチールテープ等により測定	据付完了後、法線上（最上段のみ）

#### 13-3 根固ブロック工

工 種	管理項目	測定方法	測定密度
1. 根固ブロック製作	幅、高さ、長さ、壁厚	スチールテープ等により測定	型枠取外し後全数
	対角線	スチールテープ等により測定	型枠取外し後全数
2. 根固ブロック据付			

測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
10cm	出来形図を作成し提出	特による。	様式・出来形13-1-1参照
10cm	出来形図を作成し提出	±50cm 異形ブロック据付面 (整積) ±30cm 岸壁前面 +0、-20cm又は特による。	
10cm	出来形図を作成し提出	±50cm(法面に直角) 異形ブロック据付面 (整積)の高さ (法面に直角) ±30cm 又は特による。	
10cm	出来形図を作成し提出	+規定しない -20cm	
10cm	出来形図を作成し提出	+規定しない -20cm	

測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
	観察結果を記録・整理 ただし、監督職員の請求があった場合に提示		
	観察結果を報告		
10cm	管理表を作成し提出		

測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
1 cm	管理表を作成し提出	幅 +2 cm, -1 cm 高さ+2 cm, -1 cm 長さ+2 cm, -1 cm 壁厚±1 cm	様式・出来形13-3-1参照
1 cm	管理表を作成し提出		
			13-2-2被覆ブロック据付を適用する。

14. 上部工

14-1 上部コンクリート工

工 種	管理項目	測定方法	測定密度
上部コンクリート工 イ) 防波堤	天端高又は 厚さ	レベル等により測定	天端面は1 スパン 4 箇所 以上 パラペット頂部は1 スパ ン 2 箇所以上
	天端幅	スチールテープ等によ り測定	1 スパン 3 箇所
	延 長	スチールテープ等によ り測定	法線上
	法線に対す る出入	トランシット、スチー ルテープ等により測定	1 スパン 2 箇所
ロ) 岸 壁	天端高又は 厚さ	レベル、スチールテー プ等により測定	1 スパン 3 箇所
	天端幅	スチールテープ等によ り測定	1 スパン 3 箇所
	延 長	スチールテープ等によ り測定	法線上
	法線に対す る出入	トランシット、スチー ルテープ等により測定	1 スパン 2 箇所
	防舷材ベッ ド	スチールテープ等によ り測定	スパン毎
ハ) 棧 橋			

測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
1 cm	測定表を作成し提出	天端幅10m以下の場合 は± 2 cm 天端幅10mを超える 場合は+ 5 cm－ 2 cm	様式・出来形14-1参照 天端高さ又は 厚さの管理項 目の選定は特による。  注) 本体がケーソンの場 合ケーソン質量 2,000t未満 ±20cm 2,000t以上 ±30cm
1 cm	測定表を作成し提出	天端幅10m以下の場合 は± 3 cm 天端幅10mを超える 場合は+ 5 cm－ 3 cm	
1 cm	測定表を作成し提出	+規定しない － 0	
1 cm	測定表を作成し提出	± 5 cm 注) 又は特による。	天端高又は厚さの管理項 目の選定は特による。
1 cm	測定表を作成し提出	± 2 cm	
1 cm	測定表を作成し提出	± 2 cm	
1 cm	測定表を作成し提出	+規定しない － 0	
1 cm	測定表を作成し提出	± 3 cm	
1 cm	測定表を作成し提出		
1 cm	測定表を作成し提出		
1 cm	測定表を作成し提出		
			14-1上部コンクリート工 ロ)岸壁を適用する。 梁(高さ、幅)、床版厚は 型枠検査による。

### 14-2 上部ブロック工

工 種	管理項目	測定方法	測定密度
1. 上部ブロック製作	幅、高さ、長さ、壁厚	スチールテープ等により測定	型枠取外し後全数
	対角線	スチールテープ等により測定	型枠取外し後全数
2. 上部ブロック据付			
イ) 防波堤			
ロ) 岸 壁			
ハ) 栈橋上部コンクリート			

測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
1 cm	管理表を作成し提出	幅 + 2 cm, - 1 cm 高さ + 2 cm, - 1 cm 長さ + 2 cm, - 1 cm 壁厚 ± 1 cm	
1 cm	管理表を作成し提出		
			14-1上部コンクリート工 イ)防波堤を適用する。
			14-1上部コンクリート工 ロ)岸壁を適用する。
			14-1上部コンクリート工 ハ)栈橋を適用する。

## 15. 付属工

### 15-1 係船柱工

工 種	管理項目	測定方法	測定密度
1. 係船柱	天端高	レベルにより測定	据付完了時、中心部、全数
	岸壁前面に対する出入	トランシット、スチールテープ等により測定	据付完了時、全数
	中心間隔	スチールテープ等により測定	据付完了時、各スパン毎中心部、各基
	直柱基礎コンクリート（幅）	スチールテープ等により測定	完了時、全数、天端両端
	（長さ）	スチールテープ等により測定	完了時、全数、前後面
	（高さ）	レベルにより測定	完了時、全数、中心点

### 15-2 防舷材工

工 種	管理項目	測定方法	測定密度
1. 防舷材	取付高さ	レベル又はスチールテープ等により測定	取付完了時、中心部、全数
	中心間隔	スチールテープ等により測定	取付完了時、中心部、全数

### 15-3 車止・縁金物工

工 種	管理項目	測定方法	測定密度
車止・縁金物工	天端高	レベルにより測定	取付完了時、中心部、全数
	岸壁前面に対する出入	トランシット、スチールテープ等により測定	取付完了後中心部を1点
	取付間隔	スチールテープ等により測定	上部工1スパンに2箇所
	塗 装	目視による観察	
	警戒色（シマ模様）	スチールテープ等により測定	完了時適宜

測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
1 cm	管理表を作成し提出	曲柱± 2 cm 直柱± 2 cm	様式・出来形15-1-1参照
1 cm	管理表を作成し提出		

測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
1 cm	管理表を作成し提出		様式・出来形15-2-1参照
1 cm	管理表を作成し提出		

測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
1 cm	管理表を作成し提出		様式・出来形15-3-1参照
1 cm	管理表を作成し提出	± 3 cm	
1 cm	管理表を作成し提出		
	観察結果を報告		
	確認結果を報告		

15-4 防食工

工 種	管理項目	測定方法	測定密度
防食工			

15-5 付属設備工

工 種	管理項目	測定方法	測定密度
係船環	取付位置	スチールテープ等により測定	取付完了時、中心部、全数

16. 消波工

16-1 洗掘防止工

工 種	管理項目	測定方法	測定密度
洗掘防止工			

16-2 消波ブロック工

工 種	管理項目	測定方法	測定密度
1. 消波ブロック製作	型枠形状寸法（異形ブロック）	観 察	型枠搬入後適宜
	ブロック外観（異形ブロック）	観 察	10個に1個以上
2. 消波ブロック据付	延 長	スチールテープ等により測定	据付完了後、法線上（最上段のみ）

測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
			1-12防食工を適用する。

測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
1 cm	管理表を作成し提出		

測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
			1-4洗掘防止工を適用する。

測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
	観察結果を記録・整理 ただし、監督職員の請求があった場合に提示		
	観察結果を報告		
10cm	管理表を作成し提出		

## 17. 裏込・裏埋工

### 17-1 裏込工

工 種	管理項目	測定方法	測定密度
1. 裏込材 (均しを行わない面)	天端高	レベル、レッドにより測定	測線及び測点間隔は10m以下
	法 面	レベル、レッドにより測定	測点は3点以上
	天端幅	スチールテープ、間縄等により測定	測線間隔は10m以下
	延 長	スチールテープ、間縄等により測定	天端中心上又は監督職員の指示による。
2. 裏込均し	天端面	レベル、レッドにより測定	測線及び測点間隔は10m以下
	法 面	レベル、レッドにより測定	測点は3点以上
	天端幅	スチールテープ、間縄等により測定	測線間隔は10m以下
	延 長	スチールテープ、間縄等により測定	天端中心上又は監督職員の指示による。
3. 吸出し防止材	敷設位置	スチールテープ、間縄等により測定	始、終端及び変化する箇所毎並びに20mに1箇所以上
	重ね幅	スチールテープ等により測定	1枚に2点
	延 長	スチールテープ、間縄等により測定	マットの中心を区間毎及び全長

### 17-2 裏埋工

工 種	管理項目	測定方法	測定密度
裏埋材	地盤高 (陸上部)	レベル等により測定	測線間隔20m以下 測点間隔20m以下
	(水中部)	レベル、レッド及び音響測深機等により測定	測線間隔20m以下 測点間隔20m以下

### 17-3 裏埋土工

工 種	管理項目	測定方法	測定密度
1. 土砂掘削 2. 土砂盛土	地盤高	レベル等により測定	法肩、法尻及び中心を延長20mに1箇所以上
	幅	スチールテープ等により測定	延長20mに1箇所以上
	法長	スチールテープ等により測定	延長20mに1箇所以上
	延長	スチールテープ等により測定	両端及び中心

測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
陸上 1 cm 水中 10cm	出来形図を作成し提出	特による。	
10cm	出来形図を作成し提出	特による。	
10cm	出来形図を作成し提出	特による。	
10cm	出来形図を作成し提出	特による。	
陸上 1 cm 水中 10cm	出来形図を作成し提出	±20cm	
10cm	出来形図を作成し提出	±20cm (法面に直角)	マット等を使用する場合を含む。
10cm	出来形図を作成し提出	+規定しない -10cm	
10cm	出来形図を作成し提出	+規定しない -10cm	
10cm	測定表及び敷設図を作成し提出	特による。	様式・出来形1-4-1参照 アスファルトマット、繊維系マット、合成樹脂系マット
1 cm	測定表及び敷設図を作成し提出	50cm以上(アスファルトマット・繊維系マット) 30cm以上(合成樹脂系マット)	
10cm	測定表及び敷設図を作成し提出	+規定しない -10cm	

測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
1 cm	平面図に実測値を記入し提出	特による。	変化点は測定する。
10cm	平面図に実測値を記入し提出	特による。	変化点は測定する。

測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
1 cm	測定表を作成し提出	特による。	様式・出来形17-3-1参照
10cm	測定表を作成し提出	特による。	
10cm	測定表を作成し提出	特による。	
10cm	測定表を作成し提出	特による。	

## 18. 陸上地盤改良工

### 18-1 圧密・排水工

工 種	管理項目	測定方法	測定密度
圧密・排水工			

### 18-2 締固工

工 種	管理項目	測定方法	測定密度
締固工			

### 18-3 固化工

工 種	管理項目	測定方法	測定密度
固化工			

## 19. 土 工

### 19-1 掘削工

工 種	管理項目	測定方法	測定密度
1. 土砂掘削			

### 19-2 盛土工

工 種	管理項目	測定方法	測定密度
1. 土砂盛土			

### 19-3 路床盛土工

工 種	管理項目	測定方法	測定密度
1. 路床盛土	高 さ	レベル等により測定	舗装は中心及び両端部の3点を延長20mに1箇所、道路舗装は中心及び両端部の3点を延長40mに1箇所
	幅	スチールテープ等により測定	舗装は延長20mに1箇所、道路舗装は延長40mに1箇所
	延 長	スチールテープ等により測定	両端 2 箇所

測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
			1-1圧密・排水工を適用する。

測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
			1-2締固工を適用する。

測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
			1-3固化工を適用する。

測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
			17-3-1土砂掘削を適用する。

測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
			17-3-2土砂盛土を適用する。

測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
1 cm	測定表を作成し提出	± 5 cm	
1 cm	測定表を作成し提出	+規定しない -10cm	
1 cm	測定表を作成し提出	+規定しない - 0	

19-4 法面工

工 種	管理項目	測定方法	測定密度
1. 法 面			

20. 舗装工

20-1 コンクリート舗装工

工 種	管理項目	測定方法	測定密度
コンクリート舗装工			

20-2 アスファルト舗装工

工 種	管理項目	測定方法	測定密度
アスファルト舗装工			

21. 維持補修工

21-1 維持塗装工

工 種	管理項目	測定方法	測定密度
1. 係船柱塗装	塗装箇所	目視（承諾された図面より確認）	塗装完了後、全数
2. 車止塗装			
イ) 鋼 製	塗装箇所	目視（承諾された図面より確認）	塗装完了後、全数
ロ) その他	塗装箇所	目視（承諾された図面より確認）	塗装完了後、全数
3. 縁金物塗装			

21-2 防食工

工 種	管理項目	測定方法	測定密度
防食工			

測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
			17-3-1土砂掘削、17-3-2土砂盛土及び1-15植生工を適用する。

測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
			1-13コンクリート舗装工を適用する。

測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
			1-14アスファルト舗装工を適用する。

測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
	確認結果を提出	特による。	
	確認結果を提出	特による。	
	確認結果を提出	特による。	
			21-1-2車止塗装を適用する。

測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
			1-12防食工を適用する。

## 22. 構造物撤去工

### 22-1 取壊し工

工 種	管理項目	測定方法	測定密度
1. コンクリート取壊し	幅、高さ、延長	トランシット、スチールテープ等により測定	特による。
	外 観	目視又は潜水土による観察	特による。

### 22-2 撤去工

工 種	管理項目	測定方法	測定密度
1. 水中コンクリート撤去	幅、高さ、延長	トランシット、スチールテープ等により測定	特による。
	外 観	潜水土による観察	特による。
2. 鋼矢板等切断撤去	幅、高さ、延長	スチールテープ等により測定	特による。
	外 観	目視又は潜水土による観察	特による。
3. 腹起・タイ材撤去	形状寸法	スチールテープ等により測定	特による。
	外 観	目視又は潜水土による観察	特による。
4. 舗装版撤去	幅、高さ、延長	トランシット、スチールテープ等により測定	特による。
	外 観	目視による観察	特による。
5. 石材撤去	幅、高さ、延長	トランシット、スチールテープ等により測定	特による。
	外 観	目視又は潜水土による観察	特による。
6. ケーソン撤去	形状寸法	スチールテープ等により測定	特による。
	外 観	目視又は潜水土による観察	特による。
7. ブロック撤去	形状寸法	スチールテープ等により測定	特による。
	外 観	目視又は潜水土による観察	特による。
8. 鋼矢板・H形鋼杭引抜き撤去	形状寸法	スチールテープ等により測定	特による。
	外 観	目視又は潜水土による観察	特による。

測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
㊟による。	管理表を作成し提出	㊟による。	
	観察結果を報告	㊟による。	

測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
㊟による。	管理表を作成し提出	㊟による。	
	観察結果を報告		
1 cm	測定表を作成し提出	㊟による。	
	観察結果を報告		
㊟による。	測定表を作成し提出	㊟による。	
	観察結果を報告		
㊟による。	管理表を作成し提出	㊟による。	
	観察結果を報告		
㊟による。	管理表を作成し提出	㊟による。	
	観察結果を報告		
㊟による。	測定表を作成し提出	㊟による。	
	観察結果を報告		
1 cm	測定表を作成し提出	㊟による。	
	観察結果を報告		

## 23. 仮設工

### 23-1 仮設鋼矢板工

工 種	管理項目	測定方法	測定密度
1. 仮設鋼矢板・H形鋼杭	矢板天端高	レベル等により測定	打込完了時、20枚に1枚 (H形鋼杭は全数)
	根入長	レベル等により測定	打込完了時、20枚に1枚 (H形鋼杭は全数)

### 23-2 仮設鋼管杭・鋼管矢板工

工 種	管理項目	測定方法	測定密度
1. 先行掘削			
2. 仮設鋼管杭・鋼管矢板工			

### 23-3 仮設道路工

工 種	管理項目	測定方法	測定密度
1. 仮設道路工			

## 24. 雑 工

### 24-1 現場鋼材溶接工

工 種	管理項目	測定方法	測定密度
1. 現場鋼材溶接	形状寸法 (のど厚、 脚長、溶接 長等)	スチールテープ、ノギ ス、溶接ゲージ等によ り測定	適 宜
	ひずみ	目視による観察	全 数
	有害な欠陥 の有 無	目視による観察	適 宜
2. 被覆溶接(水中)	形状寸法 (のど厚、 脚長、溶接 長等)	スチールテープ、ノギ ス、溶接ゲージ等によ り測定	適 宜
	外 観	潜水土による観察	全 数
3. スタッド溶接 (水中)			

測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
1 cm	管理表を作成し提出	±10cm	
10cm	管理表を作成し提出	+規定しない - 0	

測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
			1-8-1先行掘削を適用する。 (任意仮設は除く)
			1-8-2鋼矢板式 ロ) 鋼管矢板及び1-10-2鋼杭を適用する。(任意仮設は除く)

測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
			1-13コンクリート舗装工及び1-14アスファルト舗装工を適用する。

測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
1 mm	測定表を作成し提出	㊦による。	様式・出来形24-1-1参照
	観察結果を報告		
	観察結果を報告		
1 mm 溶接長は 1 cm	測定表を作成し提出	㊦による。	
	観察結果を報告		
			24-1-2被覆溶接 (水中)を適用する。

### 24-2 現場鋼材切断工

工 種	管理項目	測定方法	測定密度
1. 現場鋼材切断			
イ) 陸上現場切断	形状寸法	スチールテープ等により測定	全 数
	外 観	目視による観察	全 数
ロ) 水中切断	形状寸法	スチールテープ等により測定	全 数
	外 観	目視又は潜水土による観察	全 数

### 24-3 その他雑工

工 種	管理項目	測定方法	測定密度
1. 清 掃	幅、長さ、延長	スチールテープ等により測定	全 数
	外 観	目視又は潜水土による観察	全 数
2. 削 孔	形状寸法	スチールテープ等により測定	全 数
	外 観	目視又は潜水土による観察	全 数

## 25. 浚渫工

### 25-1 ポンプ浚渫工

工 種	管理項目	測定方法	測定密度
1. ポンプ浚渫	水 深 (底面)	音響測深機、レッド又はレベル等により測定	㊟による。
	(法面)	音響測深機、レッド又はレベル等により測定	㊟による。

### 25-2 グラブ浚渫工

工 種	管理項目	測定方法	測定密度
1. グラブ浚渫			

### 25-3 硬土盤浚渫工

工 種	管理項目	測定方法	測定密度
1. 硬土盤浚渫			

測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
1 mm	測定表を作成し提出 観察結果を報告	特による。	
1 mm	測定表を作成し提出 観察結果を報告	特による。	

測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
1 mm	測定表を作成し提出 観察結果を報告	特による。	
1 mm	測定表を作成し提出 観察結果を報告	特による。	

測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
10cm	業務共通仕様書第2編1-2-5の6 平面図に実測値を記入し提出	+0 -規定しない又は特による。	様式・出来形25-1参照 +；設計値より浅いことをいう。 -；設計値より深いことをいう。
10cm	業務共通仕様書第2編1-2-5の6 平面図に実測値を記入し提出	+0 -規定しない又は特による。	

測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
			25-1-1ポンプ浚渫を適用する。

測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
			25-1-1ポンプ浚渫を適用する。

#### 25-4 岩盤浚渫工

工 種	管理項目	測定方法	測定密度
1. 砕岩浚渫			

#### 25-5 バックホウ浚渫工

工 種	管理項目	測定方法	測定密度
1. バックホウ浚渫			

### 26. 埋立工

#### 26-1 固化工

工 種	管理項目	測定方法	測定密度
固化工			

#### 26-2 埋立土工

工 種	管理項目	測定方法	測定密度
1. 土砂掘削			
2. 土砂盛土			

測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
			25-1-1ポンプ浚渫を適用する。

測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
			25-1-1ポンプ浚渫を適用する。

測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
			1-3固化工を適用する。

測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
			17-3-1土砂掘削を適用する。
			17-3-2土砂盛土を適用する。

## 27. 道路舗装工

### 27-1 コンクリート舗装工

工 種	管理項目	測定方法	測定密度
コンクリート舗装工			

### 27-2 アスファルト舗装工

工 種	管理項目	測定方法	測定密度
アスファルト舗装工			

### 27-3 道路付属工

工 種	管理項目	測定方法	測定密度
1. 縁 石	高 さ	レベルにより測定	監督職員の指示による。
	総延長	スチールテープ等により測定	図面に記載する箇所
2. 区画線及び道路標示	幅	スチールテープ等により測定	監督職員の指示による。
	長 さ	スチールテープ等により測定	監督職員の指示による。
3. 道路標識	高 さ	スチールテープ等により測定	1箇所につき1回
4. 防護柵	高 さ	スチールテープ等により測定	監督職員の指示による。
	総延長	スチールテープ等により測定	図面に記載する箇所

## 28. 緑地工

### 28-1 植生工

工 種	管理項目	測定方法	測定密度
植生工			

測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
			1-13コンクリート舗装工を適用する。

測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
			1-14アスファルト舗装工を適用する。

測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
1 cm	測定表を作成し提出	± 3 cm	
1 cm	測定表を作成し提出	+ 規定しない - 5 cm	
1 cm	測定表を作成し提出	± 1 cm	
1 cm	測定表を作成し提出	± 10cm	
1 cm	測定表を作成し提出	± 5 cm	
1 cm	測定表を作成し提出	+ 3 cm - 2 cm	
1 cm	測定表を作成し提出	+ 規定しない - 10cm	

測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備考
			1-15植生工を適用する。



工事名:

様式・出来形 1-1-2(2)

令和 年 月 日

# 敷砂出来形管理図

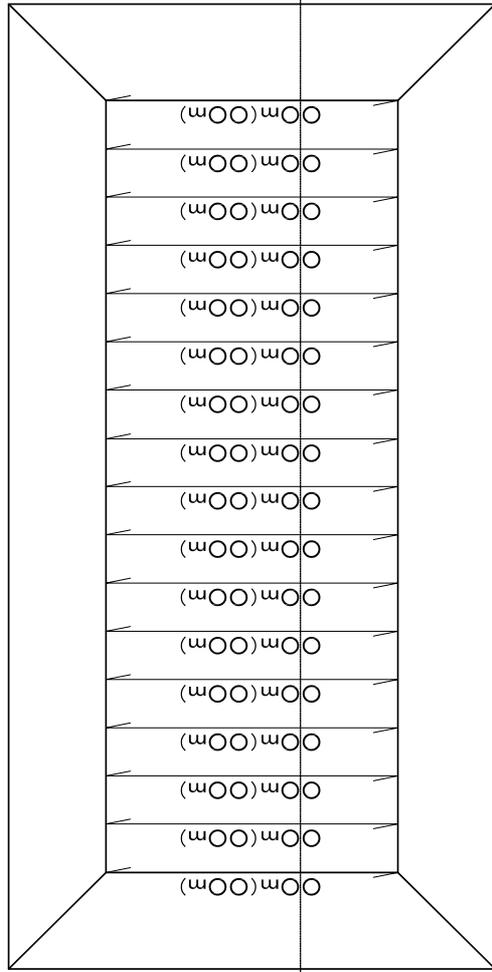
## 敷砂 平面図

- NO. 1
- NO. 2
- NO. 3
- NO. 4
- NO. 5
- NO. 6
- NO. 7
- NO. 8
- NO. 9
- NO. 10
- NO. 11
- NO. 12
- NO. 13
- NO. 14
- NO. 15
- NO. 16
- NO. 17
- NO. 18
- NO. 19
- NO. 20

港内側天端延長 〇〇.〇 (〇〇.〇)

法線上天端延長 〇〇.〇 (〇〇.〇)

港内側



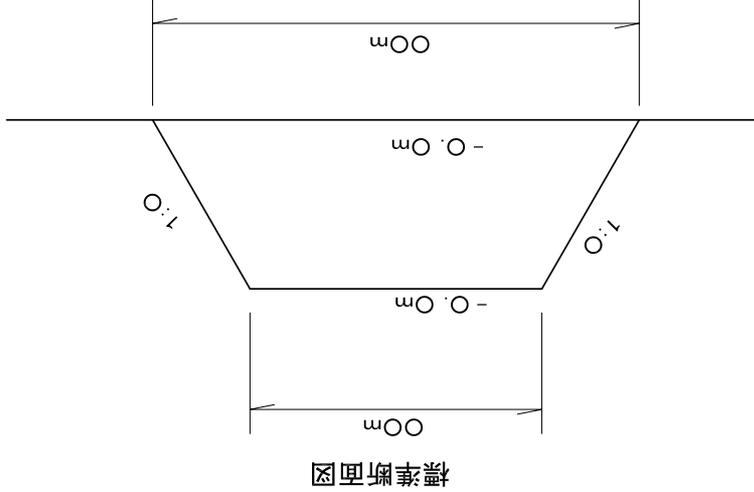
港外側

港外側天端延長 〇〇.〇 (〇〇.〇)

- 〇. 〇m

- 〇. 〇m

〇〇m



種類断面図

凡 例  
 ( ) : 設計値  
 実 数 : 実測値

サンドコンパクションパイル出来形管理表

現場代理人

工事名:

杭列	杭番号	1			2			3			4			5		
		天端高	先端深度	杭長												
A列杭	設計値															
	測定値															
	差															
A列杭	設計値			偏心量												
	測定値			変位量X			変位量Y			変位量X			変位量Y			変位量X
	差															

杭列	杭番号	1			2			3			4			5		
		天端高	先端深度	杭長												
B列杭	設計値															
	測定値															
	差															
B列杭	設計値			偏心量												
	測定値			変位量X			変位量Y			変位量X			変位量Y			変位量X
	差															

杭列	杭番号	1			2			3			4			5		
		天端高	先端深度	杭長												
○列杭	設計値															
	測定値															
	差															
○列杭	設計値			偏心量												
	測定値			変位量X			変位量Y			変位量X			変位量Y			変位量X
	差															

杭列	杭番号	1			2			3			4			5		
		天端高	先端深度	杭長												
○列杭	設計値															
	測定値															
	差															
○列杭	設計値			偏心量												
	測定値			変位量X			変位量Y			変位量X			変位量Y			変位量X
	差															









洗掘防止マット出来形管理表

現場代理人

工事名:

マットNO.	敷設位置	測定値		延長	備考
		重ね幅	敷設幅		
設計値					
実測値					
差					
設計値					
実測値					
差					
設計値					
実測値					
差					
設計値					
実測値					
差					
設計値					
実測値					
差					
設計値					
実測値					
差					
設計値					
実測値					
差					
設計値					
実測値					
差					
設計値					
実測値					
差					
設計値					
実測値					
差					

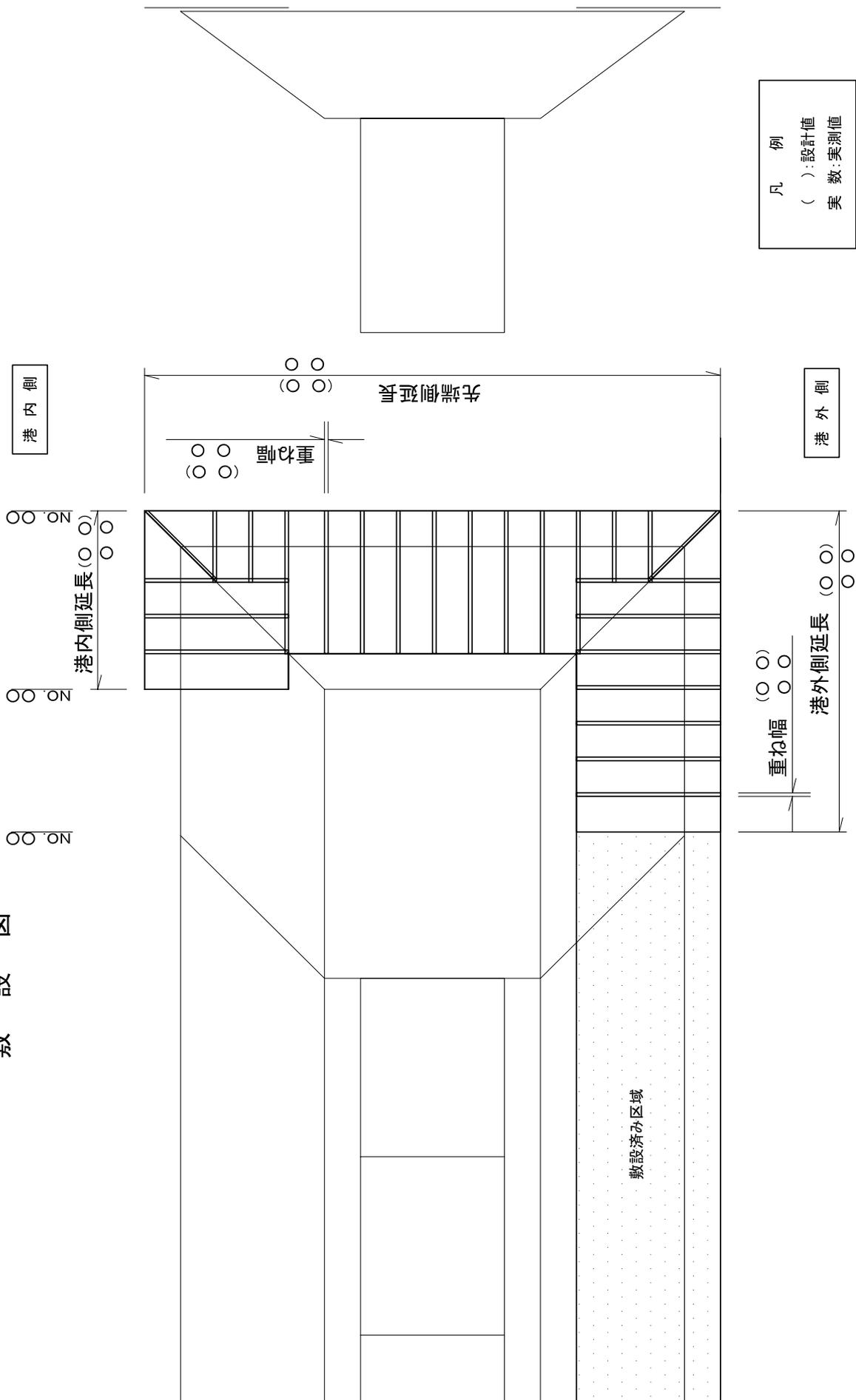
工事名:

様式・出来形1-4-1(2)

令和 年 月 日

# 洗掘防止マット出来形管理図

## 敷設図









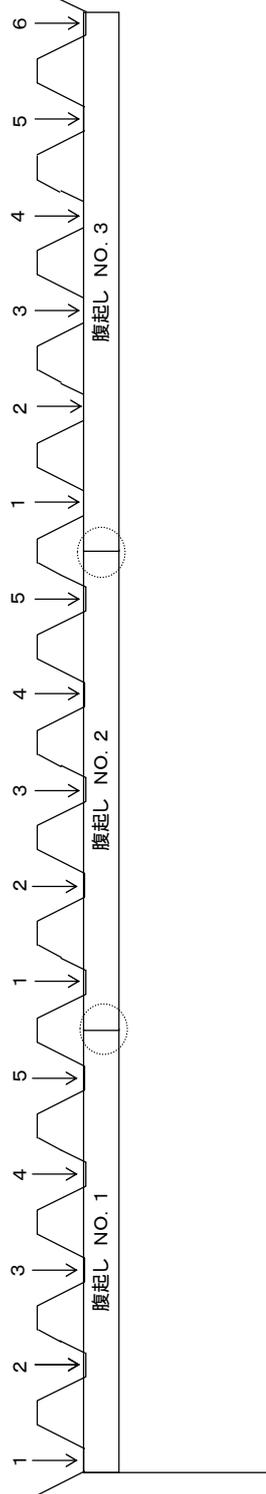
腹起出来形管理表

現場代理人

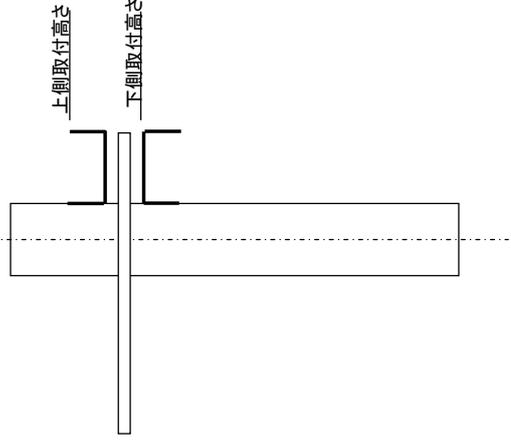
測点	種別		取付高さ		取付長さ	継手の状況
	始点側	終点側	上側	下側		
NO. 1	設計値	測定値				/
	差					
NO. 2	設計値	測定値				/
	差					
NO. 3	設計値	測定値				/
	差					

位置	ボルト NO		ボルトの取付状況	矢板との密着状況	備考
	腹起し NO	NO			
NO. 1	1				
	2				
	3				
	4				
	5				
	6				
NO. 2	1				
	2				
	3				
	4				
	5				
	6				
NO. 3	1				
	2				
	3				
	4				
	5				
	6				

平面図



断面図





鋼杭打込記録

令和 年 月 日

現場代理人

工事名: \_\_\_\_\_

打設年月日	杭番号	外径	杭長	板厚	メーカー	打込み時間	杭打機名称	型式	全重量	ラム重量	標高 (m)	50cmごとの 打撃回数 (回)	累計打撃回 数 (回)	50cmごとの 平均貫入量 (cm)	リバウンド量 (cm)	ラム落下高 (m)	摘	要		
																			設計値	実測値
										天端高(m)										
										先端深度(m)										
										地盤高(m)										
										根入長(m)										
										総打撃回数										
										最終貫入量(S)										
										リバウンド量(K)										
										設計値										
										実測値										
打止管理	$Ru = \frac{S+1}{2K}$ ef:ハンマーの効率=0.5 H:ハンマーの落下高(m) W:ハンマーの重量(kN)																			
許容 支持力	$Ru = ef \times 2WH$																			
許容 支持力 算定式																				







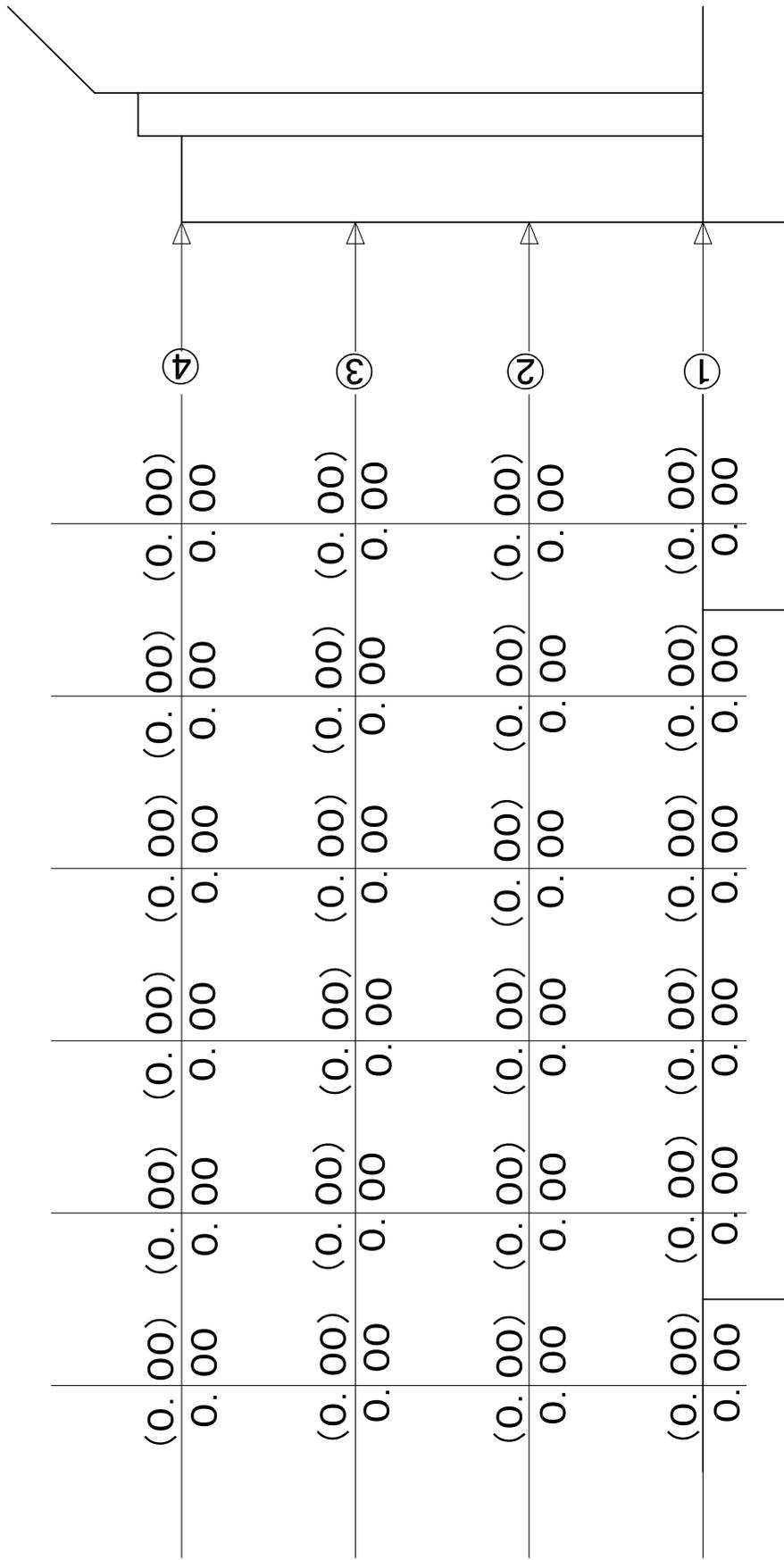






舗装出来形管理図

工事名: \_\_\_\_\_



凡 例  
( ) : 設計値  
実 数 : 実測値



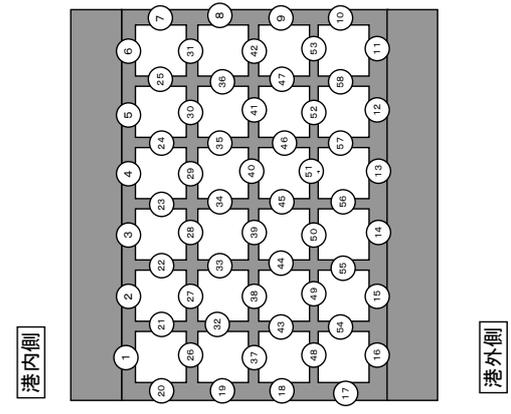
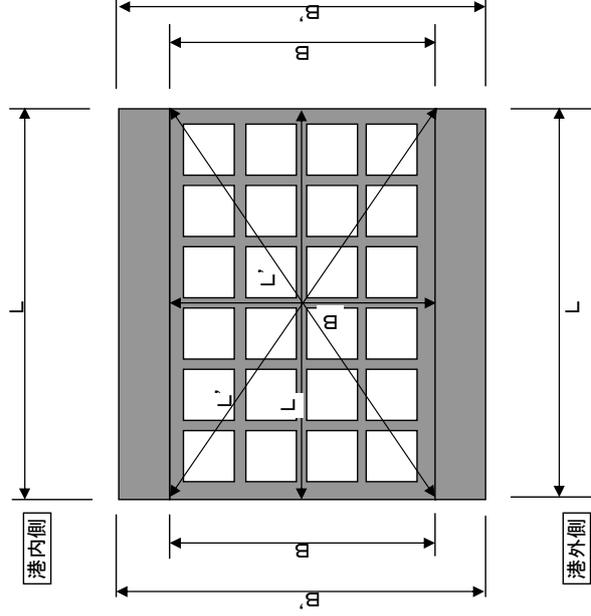
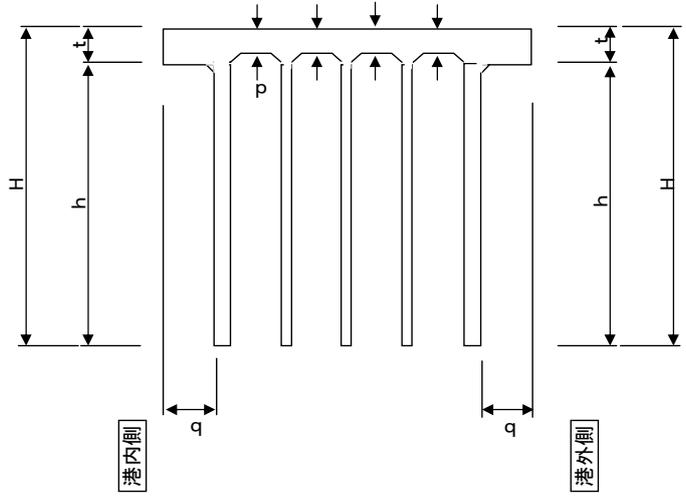




現場代理人

工事名:

測定項目	規格	測定値	検査値	差	箇所	測定値	検査値	差	箇所	測定値	検査値	差
<壁厚>												
側壁=00	±00											
隔壁=00												
<7-材の>												
B=00	+00											
L=00	-00											
b=00												
t=00												
<底板厚>												
d=00	+00											
<延長>												
L=00	+00											
<幅>												
B=00	+00											
<斜角>												
L'=00	±00											
<高さ>												
H=00	+00											
	-00											











ブロック製作等 外見チェックリスト

令和 年 月 日

現場代理人

工事名: \_\_\_\_\_

チエック項目	
製作番号(ブロックNO)	
製作日	
検査日	
大きな気泡はないか	
ひびわれはないか	
豆板(ジャンカ)はないか	
ワイヤー傷はないか	
ブロックのカケはないか	
泥などの付着はないか	
ナンバリングに誤記はないか	
その他	
総 評	
	略
	図

工事名:

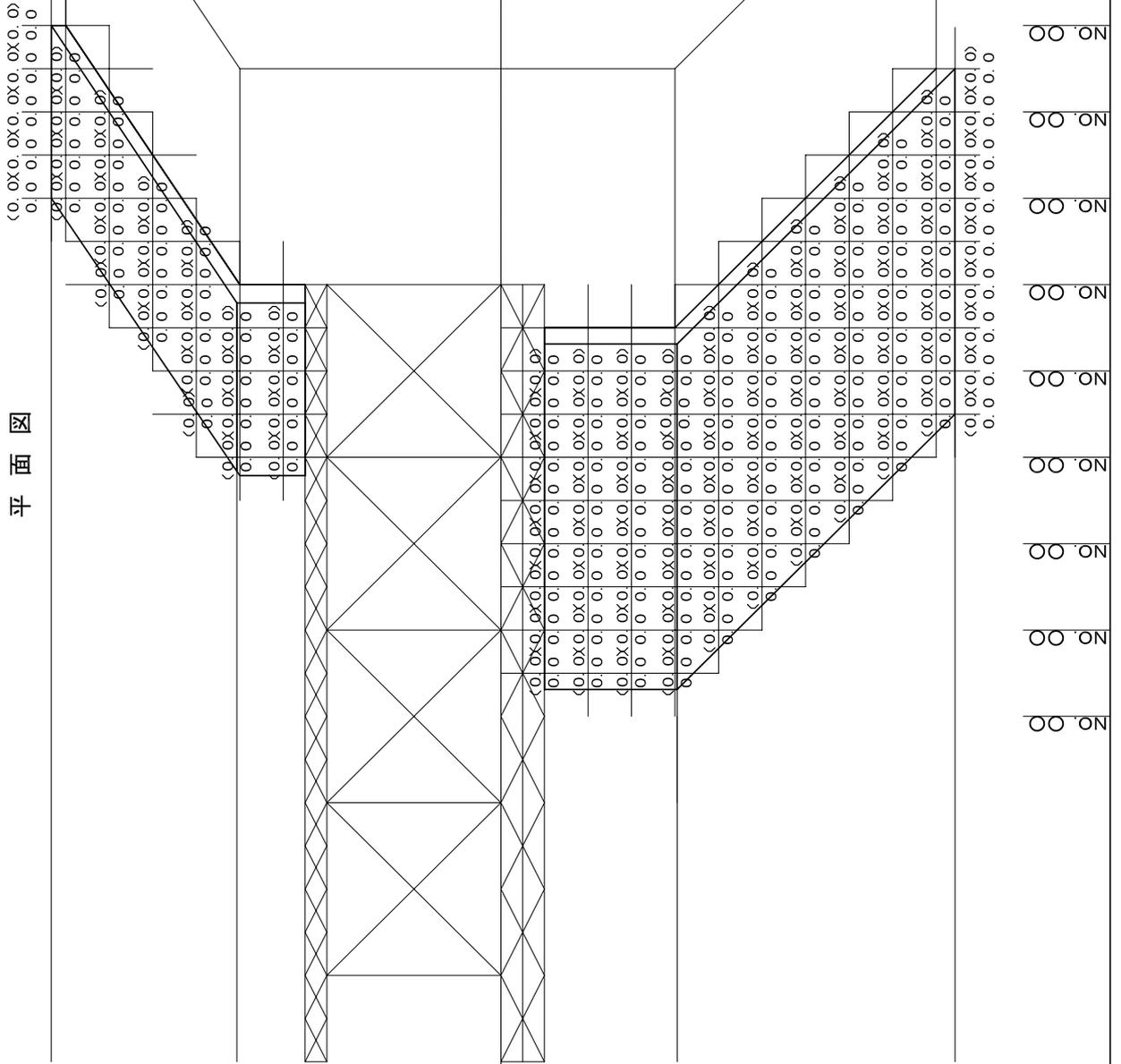
様式・出来形13-1-1-1(1)  
令和 年 月 日

# 被覆石均し出来形管理図(1)

平面図

港内側

港外側



凡例  
( ) : 設計値  
実数 : 実測値

工事名: \_\_\_\_\_

様式・出来形13-1-1(2)

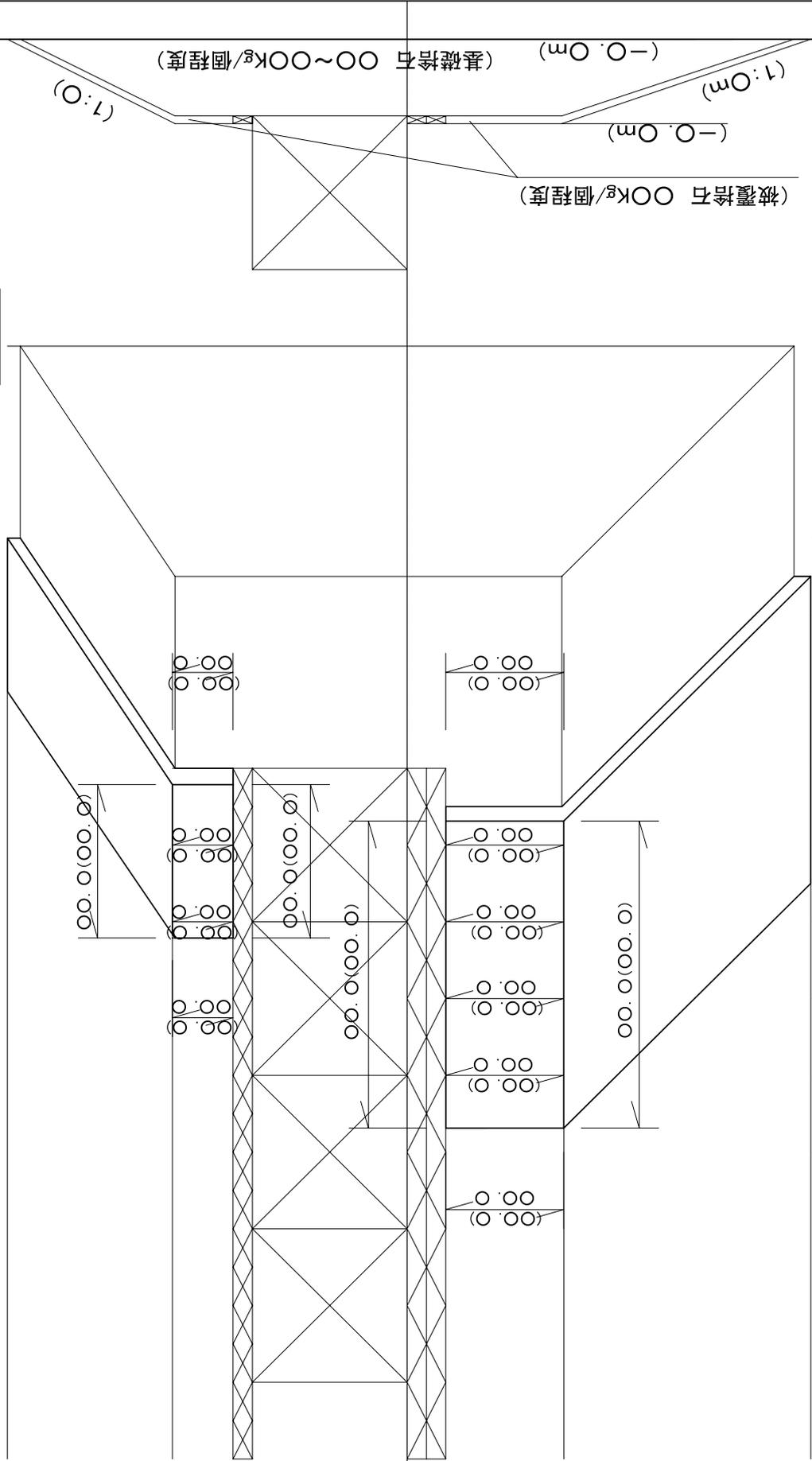
令和 年 月 日

# 被覆石均し出来形管理図(2)

平面図

港内側

港外側



凡例  
( ) : 設計値  
実数 : 実測値



















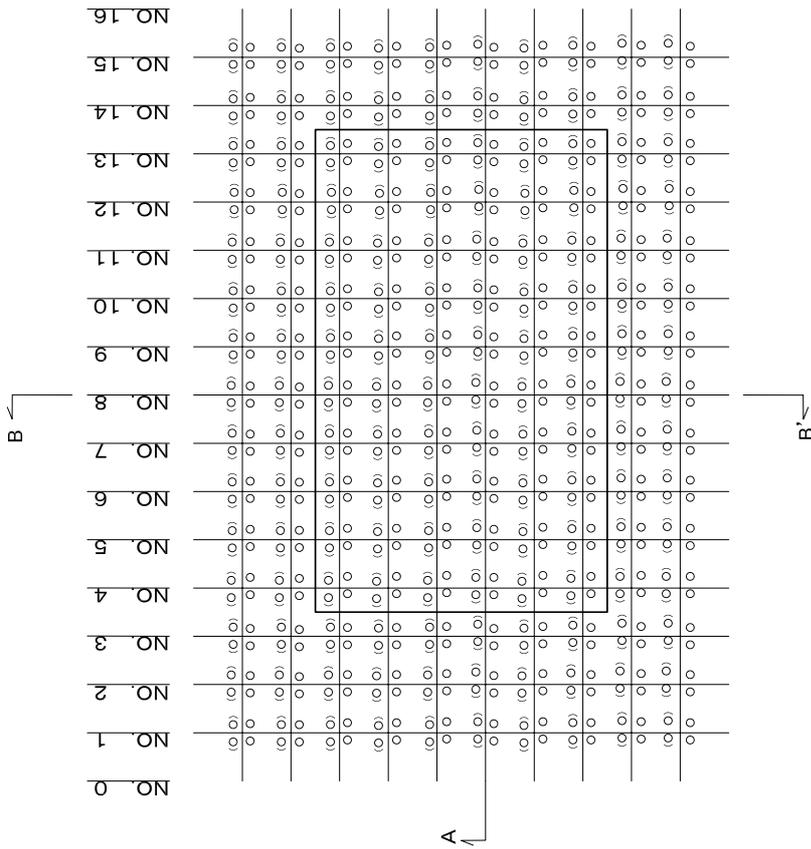




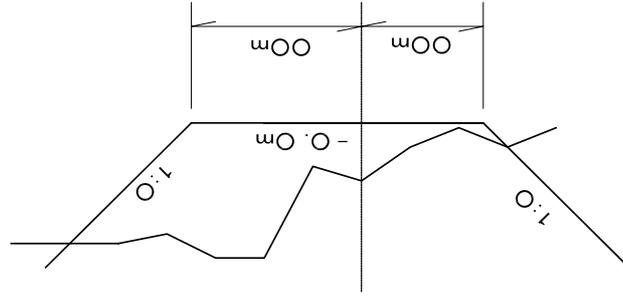
# 浚渫出來形管理図

工事名： \_\_\_\_\_

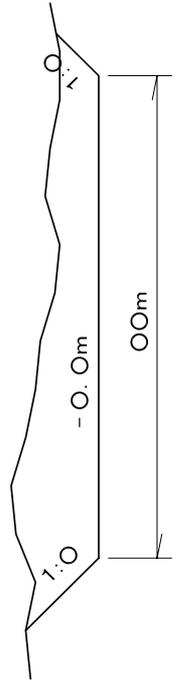
深淺圖



B-B'断面



A-A'断面



凡例  
 ( ) : 設計値  
 実数 : 実測値